右當事者間ノ離籍登記取消請求事件ニ付名古屋控訴院カ明治三十三年三月十日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告論旨ハ民法第七百三十二條ニ「戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者及ヒ其配偶者ハ之ヲ家族トス」トアルカ故ニ苟モ(一)其戸主ノ親族ニシテ(二)其家ニ在ルモノハ如何ナル順位ノモノタルト又尊卑兩親屬ノ何レタルトヲ問ハス總テ之ヲ家族トスルハ法文ノ解釋上當然ノ事柄ナリトス而シテ民法第七百四十九條ハ戸主カ家族ノ住居ニ對スル監督權ノコトヲ規定シタルモノニシテ別ニ制限ヲ設ケタル規定ニアラサルカ故ニ家族ノ如何ナル部分ノ人ニ向テモ此權利ヲ行使スルニ差支アルコトナシ然ラサレハ折角家族主義ヲ重ンシ一家ノ安寧ヲ保維センコトヲ目的トシタル前條ノ規定ハ或特別ノ人ニ對シテハ殆ント其用ヲ爲サヽルニ至ラン是レ上告人カ原院ニ於テ同條第三項ノ離籍權ニ推定家督相續人ナル除外例ヲ設ク

外國婚姻令集

第二十一號目次

○英國婚姻條例(承前)

英蘭土ノ婚姻式ニ關スル諸法律改正條例……九一

婚姻ノ契約及方式

婚姻契約ノ用語ハ現在動詞ヲ用フルモノトス

婚姻方式ハ大體ニ於テ新舊二種ノ方式アリ而シテ新式ニ二種ノ別アリ舊式モ亦三種ニ分カル故ニ都合五種ノ方式アリト言フテ可ナリ其內舊式三種ハ惹爾(ジョージ)日第四世登極第四年法律第七十六號(本叢書第十二號以來連載ノ法律)ヲ以テ制定セラレ新式二種ハ維廉(ウヰリヤム)第四世登極第六年及第七年法律第八十五號及ビクトリヤ女皇登極第十九年及第二十年法律第百十九號婚姻登記條例ヲ以テ制定セラレ共ニ現行ノ方式ナリ卽チ左ノ如シ

舊方式

一　敎會堂若ハ禮拜堂ニ於テ婚姻宣告ノ公示ヲ經タル上三箇月內ニ同一ノ場所ニ於テ婚姻式ヲ擧行スル强姻

二　婚姻擧行式普通免許狀ノ下附ニ依ル婚姻

三　婚姻擧行式特別免許狀ノ下附ニ依ル婚姻

新方式

一　婚姻登記官ヨリ婚姻式擧行免許狀ヲ添附セスシテ發シタル婚姻希望屆登記濟證明書ニ依ル婚姻

二　婚姻登記官ヨリ婚姻式擧行免許狀ヲ添附シテ發シタル婚姻希望屆登記濟證明書ニ依ル婚姻

右新方式ノ制定アル迄ハ婚姻當事者ハ「クエカー」宗徒及猶太教徒ノ外ハ凡テ右舊方式ノ內孰レニテモ其好ム所ノ一方式ニ依テ婚姻セサル可ラサル制ナリシニヨリ「プロテスタン」ト教徒ハ勿論同教徒外ノ者例ヘハ羅馬教徒ノ如キモノモ其他全ク耶蘇教ヲ奉セサルモノモ皆ナ右英蘭土教會僧侶ノ主宰スル舊方式ニ依ラサレハ婚姻スルコトヲ得サル窮屈ナル境遇ニテアリシカ維廉（ウヰリヤム）第四世ノ御宇ニ及ヒア前記ノ法律第八十五號婚姻條例ヲ公布シテ別ニ新方式ヲ設ケラレタルニヨリ爾來英蘭土教會以外ノモノハ此新方式ニ依テ婚姻スルコトヲ得ルノ自由ヲ又英蘭土教會內ノモノト雖必スシモ舊方式ニ依ルヲ要セス各自其欲スル所ニ任スト定メラレタルニヨリ英蘭土教會ノ信徒モ亦婚姻方式選擇ノ自由ヲ有スルニ至レリ故ニ今日ニ於テハ英國人ハ何宗ニ屬スルヲ問ハス婚姻方式ニ付テハ右五種中何

式ニ依ルモ各自其欲スル所ナリ但クエカー宗徒及猶太教徒ハ自己宗教ノ方式ニ依ルヘシト定メラレタルニヨリ此二教徒ハ前記ノ例ニ入ラス（編輯人曰、此二教徒ノ婚姻方式ニ付テハ別ニ法律アレトモ此レハ本叢書ニ掲載セス、又曰、本文五種ノ婚姻方式ハ某性質各々相異ナル所アルヲ（ス）氏略說スト雖如斯ハ漸次本叢書ニ掲載スル婚姻條例ノ成文ヲ見レハ詳ニスルコトヲ得ルニヨリ（ス）氏ノ略說ハ此ニ省ク）

婚姻ノ効果

夫婦關係ハ法律上兩面ヲ有スルモノト定メ一面ニ於テハ聖書ノ夫婦同體主義ニ依リ夫婦ハ一ニシテ二人ニ非スト認メ他面ニ於テハ有夫婦人保護主義ヲ執リテ夫婦ハ同體ニ非ス異體別人ナレトモ妻ハ夫ニ從屬シテ其保護ヲ受クヘキモノト定ム然レトモ女皇及皇后ハ此原則ノ例外ニシテ法律ハ之ヲ單獨人トシテ論シ夫婦關係ナキモノト假定ス

一　夫婦同體主義ヲ適用スル方面

夫婦同體主義ヲ適用シテ夫婦ヲ以テ一人ト看做ス方面ハ夫婦間ノ契約ト民刑訴

戸籍法令大全

訟事件ニ於テ夫婦各別ニ證人タルヘキ資格有無トノ二點ナリトス此方面ニ於テハ夫婦ヲ以テ一人ト看做スカ故ニ夫ハ妻ト契約ヲ爲シ妻ニ物ヲ讓與スル等ノ事ヲ爲スコト能ハス又夫婦ハ互ニ其間ニ訴訟ヲ起スコトヲ得ス加之其婚姻前ニ爲シタル兩人間ノ契約ハ婚姻ノ爲メニ一切其効力ヲ失フモノトス然レトモ此原則ハ甚タ峻嚴ニ過クルヲ以テ衡平法裁判所ハ便法ヲ設ケテ之ヲ輕減スルノ策ヲ用ヒタリ今其便法ニ依レハ夫ハ妻ニ物ヲ與ヘ若ハ之ト契約セント欲スルトキハ先ツ第三者ニ請ヒテ之ヲ以テ妻ノ爲メニ謀ル受託人ニ選定シ而シテ後チ其受託人ニ物ヲ與ヘ若ハ之ト契約スルコトヲ得ルモノニシテ今之ヲ約言スレハ則チ夫ハ信託法ニ從ヒ此點ニ付受託人ト直接交渉シテ妻ト直接交渉セス而シテ其實ハ妻ノ爲メニ圖ルモノニシテ受託人ハ受益者タル妻ノ爲メニ其夫ヨリ物ノ讓與ヲ受ケ之カ監視保護ノ任ニ當ルナリ土地ニ付テモ亦同樣ニシテ夫ハ妻ノ使用ニ供スル爲メニ信託法ニ依リ其所有地ヲ第三者タル受託人ニ讓渡ス方式ヲ以テ實際妻ニ讓渡スコトヲ得是レ後文ニ記載スル有夫婦人獨占財產設定ノ場合ニシテ衡平法裁判所カ老慣法ノ夫婦同體主義ニ對シテ例外ヲ開キタルモノナリ尙ホ後文ニ於ケ

第二十一號目次

一 沖繩縣區制……頁數 一五一

員及區公民中選擧權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ合議體ニ組織シタル場合ニ於テハ區長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル區書記ヲ以テ委員長トス

委員ハ區會ニ於テ之ヲ選擧ス

委員ノ組織任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ規則ニ之ヲ規定スヘシ

委員ニ關シテハ第四十五條ノ例ヲ適用ス

委員ニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲豫審ニ付セラレタルトキハ沖繩縣知事ハ其ノ職ヲ停止スルコトヲ得

第二款　區長、區書記及區吏員ノ職務權限

第十二條　區長ハ區ヲ統轄シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

區長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　區會ノ議事ヲ準備シ竝其ノ議決ヲ承認シ及執行スル事

二　區有財產及區ノ營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三　區ノ權利ヲ保護スル事

四　區ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算其ノ他區會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

五　區吏員ヲ監督シ委員ヲ除ク外其ノ他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

六　區ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七　外部ニ對シテ區ヲ代表シ及區ノ名義ヲ以テ他廳若クハ一個人ト交渉スル事

八　法律命令若クハ區會ノ議決ニ依リ使用料加入金手數料區稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九　區條例及區規則ヲ設定スル事

十　區營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十一　收入役及區吏員ノ身元保證ヲ徵シ竝其ノ額ヲ定ムル事

十二　其ノ他法律命令若クハ上司ノ指令ニ依テ區長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第十三條　區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背ク ト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ若クハ取消スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ區長ヨリ沖繩縣知事ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ又前項取消ニ不服アル區會ハ沖繩縣知事ニ訴願スルコトヲ得

前項沖繩縣知事ノ決定若クハ裁決ニ不服アル區會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ區長ヨリ沖繩縣知事ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ其ノ沖繩縣知事ノ決定ニ不服アル區會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ決定若クハ裁決ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於

テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　區會ニ於テ必要ノ收支ニ關シ否決シタルトキ又ハ區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決必要ノ收支ニ關シ不當ノ削減ヲ爲スト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ沖繩縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ沖繩縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項沖繩縣知事ノ處分ニ不服アル區會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニアラス

第十五條　區會招集ニ應セス若クハ成立セサルトキハ區長ハ沖繩縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

區會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス若クハ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

第一項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ區會ニ報告スヘシ

第十六條　第五十二條但書若クハ第五十四條第二項ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第十七條　區書記ハ區長ノ命令ヲ承ケ區ノ行政ニ係ル庶務ニ從事ス

區長故障アルトキハ上席區書記區ノ行政ニ付其ノ職務ヲ代理ス

區長ハ區書記ヲシテ區ノ行政事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十八條　收入役ハ區ノ收入ヲ受領シ其ノ費用ノ支拂ヲ爲シ其ノ他會計事務ヲ掌ル

第十九條　部長及其ノ代理者ハ區長ノ命令ヲ承ケ部內ニ關スル國ノ行政及區ノ行政ニ付區長ノ事務ヲ補助執行ス

第二十條　委員ハ區長ノ監督ニ屬シ區有財產若クハ區ノ營造物ヲ管理シ其ノ他區行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

委員ノ職務權限ニ關スル細則ハ區規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第二十一條　區役所ノ處務規程ハ沖繩縣知事之ヲ定メ其ノ他區吏員ノ處務規程ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ區長之ヲ定ム

區吏員ノ服務紀律ハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第三款　給料及給與

第二十二條　名譽職吏員ハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

部長及其ノ代理者竝委員ニハ實費辨償ノ外區會ノ議決ヲ經テ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

實費辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ區會ノ議決ヲ經テ沖繩縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條　有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ區規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

區條例ヲ以テ有給吏員ノ退隱料及遺族扶助料ヲ設クルコトヲ得

第二十四條　有給吏員ノ給料旅費退隱料遺族扶助料其ノ他第二十二條ノ給與ニ關シ異議アル者ハ沖繩縣知事ニ訴願シ其ノ沖繩縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴額若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第二十五條　給料旅費退隱料遺族扶助料報酬辨償等ハ區ノ負擔トス但シ給料旅費ニ限リ當分國庫ヨリ支給ス

第三章　區會

第一款　組織及選擧

略

第二款　職務權限及處務規程

第四十六條　區會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

一　歲入出豫算ヲ定ムル事

二　法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料加入金手數料區稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事

三　區有不動產ノ賣買交換讓受讓渡竝質入書入ヲ爲ス事

四　基本財產及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事

五　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

六　區有財産ノ管理方法ヲ定ムル事
七　區ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事
其ノ他區會ノ職權ハ法律命令ノ定ムル所ニ依ル

第四十七條　區會ハ區長ノ報告書ヲ請求シテ區有財産ノ管理竝收入支出ノ正否ヲ檢査スルコトヲ得

區會ハ前項ノ目的ノ爲ニ五名以下ノ委員ヲ議員中ヨリ選擧シ區長又ハ其ノ指名シタル官吏若クハ吏員立會ノ上關係書類竝金庫ヲ檢閲セシムルコトヲ得

區會ハ區ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ區長若クハ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第四十八條　區會ハ區長若クハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

第四十九條　區會ハ區長ヲ以テ議長トス若區長故障アルトキハ其ノ委任ヲ受ケタル區書記ヲ以テ之ニ充ツ

第五十條　區長及其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ何時ニテモ會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得但シ議員ノ濱說ヲ中止スルコトヲ得ス

前項ノ出席者ハ議員ノ職ニ在ル者ヲ除ク外議決ニ加ハルコトヲ得ス

第五十一條　區會ハ會議ノ必要アル毎ニ區長會期ヲ定メテ之ヲ招集ス議員四分ノ一以上ヨリ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキモ亦同シ

招集竝會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除ク外少クトモ會議ノ三日前タルヘシ

區會ハ區長之ヲ開閉ス

第五十二條　區會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付集會再回ニ至ルモ議員仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　區會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第五十四條　議長及議員ハ自己若クハ其ノ父母妻子兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ區會ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

前項除席ノ爲ニ議員ノ數減少シテ會議ヲ開ク定數ニ滿タサルトキモ仍會議ヲ開クコトヲ得

第五十五條　區會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第五十六條　議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十七條　會議及傍聽ノ紀律竝取締ニ關スル規則ハ內務大臣之ヲ定ム其ノ規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ區會ノ議決ニ依リ五日以內出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

第五十八條　前條ニ依リ內務大臣ノ定ムル規則ノ外區會ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ會議規則及傍聽規則ヲ設クヘシ其ノ會議規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ區會ノ議決ニ依リ五日以內出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

區會ニ於テ行フ選擧ノ方法ハ會議規則ニ之ヲ規定スヘキモノトス

第五十九條　區會ノ書記ハ區書記及附屬員ノ中ニ就キ區長之ヲ命ス

◉改正刑法ニ付キ新著書紹介ノ廣告

司法大臣　松田正久閣下題字
司法次官　法學博士　河村讓三郎閣下題辭
大審院部長　法學博士　富谷鉎太郎閣下序
內務省警保局長　古賀廉造閣下序
司法省民刑局長　平沼騏一郎閣下序
司法省參事官　谷田三郎先生校閱
日本法令審査會主事　宍戸深藏著

新刑法實用

（四版）

菊版四百八頁
總クロース綴上製
定價金壹圓五拾錢
送費金拾錢三部以上送費不要

本書ハ逐條講義トシ各頁ヲ三段ニ區別シ上欄ニ舊刑法ヲ揭ケ、中欄ニ新刑法、下欄ニ改正ノ理由ト說明トヲ詳述ス

本書ハ未ダ江湖ニ顯ハレザル材料ニ依リテ編纂著述シタルモノナリ

申込所　東京市神田區今川小路三丁目六番地　明倫館

戸籍叢書

第貳拾貳號

明治四十一年九月十五日發行（毎月一回十五日）

川和第三八二號

戸籍叢書第二十一號　（毎月一回十五日發行）

共溫社で
專賣特許と
實用新案と
を得ました
天下無比の
裏毛靴下と裏毛足袋
とが出來ました

一手發賣元
東京市小石川區大和町八番地
國益社

◎嶄新◎

此の靴下と足袋とが特許を得たのは次ぎの特色があるからです

（一）裏に一面毛を織り出して居ります
（二）寒中でも足が温かです
（三）持ちが三倍です
（四）直段が安いです
（五）色が變はりませぬ
（六）鼻緒靴ずれが出來ませぬ
（七）長く坐りましても足が痛まぬ
（八）色は黒、紺、白、ヲリーブ、エビチヤ種々あります
（九）大人なれば足の大小にかまわず履けます
（十）何度でも洗ひがきゝます

定價は

靴下（毛製 一足 金五十錢　綿製 一足 金二十五錢）
足袋（毛製 一足 金三十錢　綿製 一足 金二十錢）

◎足袋は御得意樣から十德足袋と云ふ名前を頂戴致しました
△取次販賣を御望みの向は至急申込ありたし

明治四十一年八月十二日印刷
編輯兼發行者 神田區今川小路三丁目六番地 京橋區宗十郎町十五番地 明治四十一年九月十二日印刷
印刷者 京橋區宗十郎町十五番地 中島[illegible]之助

川和第三八二號

戸籍法實用

○催告

本會質疑錄代幷ニ叢書代御未納ノ向ハ夏期休暇後決算ノ折柄ニ付彼是苦慮罷在候間本月ハ必ズ遲滯ナク至急御拂込相成度候也

明治四十一年九月

戸籍學會

第二十二號目次

	頁數
第七十二條	三一五
第七十三條	三一七
第七十四條	三一九
第七十五條	三二一
第七十六條	三二三
第七十七條	三三五
第七十八條	三三九

第七十二條　夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト雖モ前條第一項ノ規定ニ依リ出生ノ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ嫡出子否認ノ意思ヲ有スルモ出生屆ヲ爲スヘキコトヲ規定シタルモノナリ

本條二項ハ夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト雖トモ父ヨリ出生ノ屆出ヲ爲ササルヘカラサル旨ヲ規定セルニ止マリ出生屆ヲ爲シタル故ヲ以テ嫡出子ナルコトヲ承認シタリト云フヲ得サルニ因リ父ハ否認權ヲ失フコトナク隨テ出生屆ニハ否認ノ意思ノ有無ヲ記載スヘキモノニアラス

第七十三條　民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ其届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

父カ裁判ニ依リテ定マリタルトキハ其父ハ裁判確定ノ日ヨリ一ケ月内ニ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲シ且第一項ノ届出ニ依リテ爲シタル登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

本條ハ前婚解消後六箇月ヲ經過セスシテ再婚ヲ爲シタル者ノ子カ前夫ノ子ナルヤ後夫ノ子ナルヤヲ確ムルコト能ハサル場合ニ於テ母ヨリ出生届ヲ爲スヘキコト及ヒ父カ定マリタル後母ノ出生届ニ因リ爲シタル登記ヲ取消シ更ニ出生届ヲ

爲スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ別ニ說明スヘキ點ナシ

第七十四條　病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ於テ父又ハ母ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ病院、監獄又ハ其他ノ公設所ノ長若クハ管理人ヨリ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ於ケル出生子ニ付キ其ノ長ヨリ出生届ヲ爲スヘキコトヲ規定シタルモノナリ

一病院監獄ノ長ヨリ爲スヘキ届出ニ付テハ第二十九條ヲ準用スヘシ

二病院監獄其他ノ公設所ノ長若クハ管理人ヨリ届出ヲ爲ストキハ出生子ノ父母ニ代リテ届出ヲ爲スモノニシテ其者ヲ指シテ法定ノ届出人ト謂ハサルヲ得サルニ付右出生届ニハ本文ノ外尚第四十四條、第四十五條各號ノ事項ヲ具備スヘキヲ正當トスルモ第四十四條第三號第四十五條第二項ノ記載ヲ爲ササルモ差支ナシ

三本條ノ届出ニモ仍ホ第五十八條ノ規定ヲ準用スヘキモノトス但同條ハ口

頭ヲ以テ屆出ヲナス場合ニノミ適用スヘキモノニシテ書面ヲ以テ屆出ヲナス場合ニ於テハ郵便其他ノ方法ニ依ルモ差支ナキヤ勿論ナリ

第七十五條　棄兒ヲ發見シタル者ハ二十四時内ニ其旨ヲ戸籍吏ニ屆出ツルコトヲ要ス

棄兒發見ノ屆出アリタルトキハ戸籍吏ハ其兒ニ氏名ヲ命シ且之ニ附屬スル衣服、物品、發見ノ場所、年月日時其他ノ景況竝ニ其兒ノ出生ノ推定年月、氏名、男女ノ別、引受人ノ氏名、職業、本籍地及ヒ所在地又ハ育兒院ノ稱號竝ニ場所及ヒ引渡ノ年月日ヲ調書ニ記載シテ之ヲ屆書ニ添ヘ置クコトヲ要ス

引受人又ハ育兒院ニ變換アリタルトキハ雙方ヨリ十日内ニ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

第二項ノ調書ハ登記ニ付テハ之ヲ屆書ト看做ス

本條ハ棄兒發見ノ届出方、調書ノ作製、引受人變換ノ取扱方ヲ規定シタルモノナリ

第一　届出ヲ爲スヘキ場合

一　棄兒發見ノ届出ハ發見シタル兒ニ付キ出生ノ届出アリタルヤ否ヤ分明ナラス且届出義務者ナク又ハ其所在不明ナル場合ニ爲スコトヲ要ス

二　甲男出稼中乙女ト通シ一子ヲ擧ケタルモ其當時出生ノ届出ヲ爲サスシテ甲男其子ヲ引取リ嬰兒養育方ヲ弟丙（甲ハ廢嫡セラレタルモノニテ丙ノ家族ナリ）ニ依托シ再家出シタル儘行衛不明ナルヲ以テ丙ハ其後十數年來其子ヲ養育シ居レリ然ルニ乙女卽母タルモノハ原籍氏名幷ニ所在等不明ナルヲ以テ私生子トシテ母ヨリ届出ツルコト能ハサルノミナラス甲男モ所在不明ナルヲ以テ届出ヲ爲シ能ハサル場合ニハ丙ノ家族トナサントスルニハ戸主丙ハ兄甲カ公然認知セサリシ子ヲ甲ノ庶子トシテ届出ツルコトヲ得ス又母ノ知レサル子ヲ私生子トシテ届出ツルコトヲ得サルカ故ニ棄兒發見ノ届出ヲ爲シ養子緣組等ノ手續ニ依ルヘキモノトス

本籍父母共ニ不明姓不詳藤一ト稱シ現今十四歲位ノ小兒アリ右藤一ハ明治二十八年六月中（當時十歲位）乞食トナリテ單獨某村ニ彷徨シ來リ病ニ罹リテ進退谷リ或ル辻堂ニ寢臥シ餓死ニ頻スルノ悲境ニ在ルヨリ同村某ナル者之ヲ憫ミ自宅ニ伴ヒ相當ノ手當ヲ加ヘ以テ其急ヲ救ヒ爾來今日ニ至ルマテ四年ノ久シキ養育ヲ遂ケタルモ無籍者ナルヲ以テ裁判所ノ許可ヲ求メ就籍届ヲナサントスルモノアリ然ルニ本人ハ未丁年者ニシテ自ラ許可申請ヲナスノ能力ナキニ依リ相當後見人ヲ撰任セサルヘカラサルモ右引受養育ヲ遂ケタル某ノ外緣故者ナク又一人ノ親族ナキヲ以テ親族會ヲ組織スルニ由ナシ之等ハ法律上到底救濟ノ途ナキカ如シト雖トモ此場合ニ於テハ藤一ヲ發見シタル者ニ於テ棄兒發見ノ届出ヲナスヲ相當トス若シ發見者ノ死亡其他ノ事由ニ由リ其届出ヲナサル場合ニ於テハ就籍ヲ爲ス外ナカルヘク之カ届出ヲナス爲メ後見人ヲ選定スヘキ場合ニハ裁判所ハ民法第九百四十五條ニ依リ緣故アル他人ノ内ヨリ會員ヲ選定シ親族會ヲ招集スルコトヲ得ヘク緣故アル者トハ本人ノ朋友其他本人ノ利益ヲ圖ル者卽隣佑等ヲ指スカ故實際親族會ノ招集ヲ爲シ得サルコトアラサルヘシ

父母共ニ知レス又其生死モ不詳ノ獨身無籍者ニシテ推定十七八歳位ナル甲男アリ單身諸所ヲ浮浪中乙村ナル乙某方ニ止宿セリ然ルニ乙某甲ノ來歷ヲ聞キ之ヲ憫ミ乙村ニ於テ就籍一家ヲ創立セシメントスル場合ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲スヲ相當トス

無籍者ニシテ其父母ノ所在地及本籍地ヲ知ラス且第七一條第三項乃至第

一第四ニ該當スル出生届義務者モ不明ナルトキハ棄兒發見ノ届出ヲ爲サシムルヲ相當トス

迷兒ト雖モ其ノ本籍氏名等全ク不明ナル場合ニ於テハ棄兒ノ取扱ヲ爲スヘキモノトシ發見者ヨリ棄兒發見ノ届出ヲ爲サシメ登記及戸籍ノ編製ヲナスヲ相當トス

第二　届出期間

二十四時間内ノ制限ハ戸籍吏カ其届出ヲ受理スルノ期間迄ヲ指シタルモノナリ

第二　届出地

棄兒發見ノ場合ハ其棄兒發見地ノ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

第四　調書

一第二項ノ場合ニ於テ戸籍吏ノ作ルヘキ調書ニハ一定ノ書式ナシ

二第二項ニ「戸籍吏ハ其兒ノ出生推定年月ヲ調書ニ記載シ云々」トアルニヨリ戸籍吏ハ出生ノ日時ヲ推定シ得ルトキハ之ヲ調書ニ記載スヘキモノトス

三棄兒發見ノトキ直ニ引受人ナキニ苦ミ暫ク町村預リトナスコト往々アリ此場合ニ於テ身分登記上引受人氏名ハ町村長ノ職氏名ヲ記スヘシ

棄兒ノ處分ハ戸籍吏ノ爲スヘキモノニアラス但棄兒ニ付キ引受人又ハ育兒院ナキ場合アラハ戸籍吏ハ其旨ヲ調書ニ記載スヘシ

第五　登記及ヒ戸籍取扱方

一戸籍及ヒ身分登記取扱上ニ於テ棄兒ヲ發見シタルトキハ本條ノ届出ヲナスヘキハ勿論此場合ニ於テハ民法第七百三十三條第三項ニヨリ一家ヲ創立シテ其戸主トナルヘキモノニ付本籍入身分登記簿ニ登記ヲナシタル上其登記ニ基キテ戸籍ヲ編製スヘキハ當然ノ結果ナリ(戸籍法第百八十條)

官給ヲ得テ養育シタル棄兒ノ就籍ニ付テハ棄兒ノ記載アル戸籍ヲ保管スル戸籍役場所在地ヲ以テ本籍地ト見做スヘキニ付別段就籍ノ手續ヲ要セス

棄兒發見ノ届出アリタル時ハ戸籍吏ハ第二項ノ手續ヲナシ第四項ニ依リ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ別ニ一家創立ノ手續ヲ要セス其登記ニ基キ町名地番等ヲ附セサル戸籍ヲ編製スヘキモノトス

二　第一項ハ棄兒發見ノ届出方ヲ規定シ第二項ハ届出アリタルトキ戸籍吏ノ爲スヘキ手續ヲ示シ戸籍吏ハ第十五條ニヨリ登記ヲナスヘシト雖モ居留地内ニ於テ棄兒發見ノ場合ハ發見人ハ何人ニ向テ其届出ヲナスヘキモノナルヤ假ニ領事ニ於テ其届ヲ爲スヘキ者トスルモ領事ハ戸籍吏ニアラサルヲ以テ棄兒届出ノ登記若クハ就籍ノ手續ヲナサシムルニ由ナク全然本條ノ手續ヲ履ム能ハス單ニ該届出ヲ受クルノ外身分取扱ニ關シ何等ノ手數ナカルヘシ又該届書ヲ受理セシメタル後ニ於テモ棄兒ハ本籍分明ナラサルヲ以テ之ヲ何レニ送致スヘキヤ之ヲ外務大臣ニ送致センカ外務大臣ハ更ニ何レノ本籍地ニモ發送シ能ハサル困難ヲ生セントス且棄兒ヲ引受クヘキ者又ハ育兒院ノ設立ナキトキ本邦ニ於ケル如ク市町村ニ於テ養育スルノ制度ナキ爲斯ル場合ニハ棄兒ハ如何處分スヘキモノナリヤト云フニ棄兒カ日本人ノ子ナルコト分明ナルトキハ發見者ノ本籍地ニ棄兒發見ノ届書ヲ送付スルヲ相當トス

棄兒發見ノ登記ハ左ノ振合ニ依リ本籍人身分登記簿出生ノ部ニ之ヲ爲スヘシ

第何號

發見ノ時	明治何年何月何日午前(後)何時何分	男(女)	氏　名
發見ノ場所	何郡何村何番地(道路)		推定明治年月日生
引渡ノ時	明治何年何月何日		

引渡人　何郡何村何番地戸主族稱職業　氏　名

何郡何村何番地戸主族稱職業　氏　名

明治何年何月何日生

發見者

右棄兒發見明治何年何月何日届出同日受附㊞

棄兒發見届ニヨリ戸籍ヲ編製スルトキノ本籍地欄内ニハ何市何町村ト記スルヲ以テ足ル

棄兒發見ノ登記ヲ爲シタルニ因リテ編製スヘキ戸籍ノ本籍地欄ハ何市額書ハ戸主、戸主トナリタル原因及年月日欄ニハ父母知レサルニ因リ明治何年何月何日一家創立戸主ト爲ル同月何日棄兒發見届出同日受附ト記載スヘシ

棄兒ノ戸籍ヲ編製スル場合ハ其族稱ヲ知ルニ由ナシ隨テ族稱欄ハ何等記載ヲ要セサルカ如シト雖モ如此取扱フトキハ該棄兒ハ遂ニ族稱ヲ有セサルニ至ルヘシ故ニ平民ト族稱ヲ附スヘキヲ相當トス

棄兒發見ノ届出ニ因リ戸籍ヲ編製スル場合ニ於テ戸主ト爲リタル原因及年月日欄ニハ棄兒ノ出生推定年月ヲ記載スヘキモノトス

第六　施行前ノ棄兒

民法施行前ノ棄兒數人アリ之等ハ明治十九年内務省令第十九號及明治二十年岡山縣達乙第七三號ニ依リ一個ノ戸籍用紙ニ列記シ戸籍簿ノ末ニ編綴セリ然レトモ之ニ對シ別段ニ後見人ナク唯タ棄兒發見人又ハ引受人等ニ於テ之ヲ保護セリ是等ハ一家創立者ト看做スヘシ

第七　引受人ノ變換

一棄兒ノ引受人又ハ育兒院ニ變換アリタルトキハ第三項ニ因リ双方ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツヘキノ處新舊引受人又ハ育兒院カ戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスル場合ト雖モ棄兒カ本籍ヲ有セル戸籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

二引受人ノ本籍地戸籍吏ハ身分登記ヲ爲シ又ハ棄兒ノ戸籍ヲ編製スヘキモノニアラス

三戸籍吏管轄地外ノ者ニ於テ棄兒ノ引受替ヲ爲シタルトキハ棄兒發見地ノ

戸籍吏ニ引受人變換ノ届出ヲ爲スヘク其届出アリタル場合ニ於テハ登記及戸籍ノ記載ヲナスヘキモノトス

棄兒引受人變換ノ届出ヲ受ケタルトキハ身分登記ヲナシ棄兒ノ戸籍事項欄ニ附錄第三號第五號ノ記載ヲ爲スヘク新ニ戸籍ヲ編製スヘキモノニ非ス

棄兒引受人變換ノ届出ハ新舊引受人連署ニテ届出テシメ身分登記ハ左ノ振合ニ依リ本籍人身分登記簿出生ノ部ニ之ヲナスヘシ

第何號

何郡何町戸主　　男(女)　氏　　名

推定何年何月何日生

何郡何村何番地戸主族稱職業

引受人　　氏　　名

何年何月何日生

右(名)明治何年何月何日引受人トナル

何郡何町何番地戸主族稱職業

前引受人　　氏　　名

何年何月何日生

右棄兒引受人變更何年何月何日届出同日受附㊞

第七十六條　棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ其兒ヲ引取ルトキハ一ケ月內ニ第六十八條ノ屆出ヲ爲シ且棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

本條ハ棄兒ノ父母カ其兒ヲ引取ル申請ヲ規定シタルモノナリ

一　棄兒ノ父母現出シテ出生屆ヲ爲シタル場合ニ於テ父母ノ本籍ノ戶籍役場ト棄兒發見登記ノ戶籍役場ト管轄ヲ異ニスルトキハ棄兒發見登記取消ノ申請ハ棄兒發見登記ヲ爲シタル戶籍吏ニ爲スヘキモノトス又右管轄ノ異ナル場合ニ於テ取消サレタル棄兒發見登記ノ番號ハ本籍戶籍役場ニ於テハ知ルヘキ方法ナシ

二　棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ棄兒登記ノ取消ヲ申請スル場合其中間ニ於テ轉マ引受人ノ變更アルトキハ最初ノ登記及中間變更ノ登記モ併セテ取消サシムヘシ

三　二十有餘年前ノ棄兒ニシテ其棄兒ヲ發見セル者カ引受人トナリ且其者ノ

養子トシテ自己ノ戸籍ヘ棄兒入籍トシテ入籍セシメ居ル者アリ然ルニ今日ニ於テ該棄兒ノ母カ現出シ其棄兒ヲ引取ル旨申出タリ(双方異議ナキモノ)斯ル場合ニ於テハ本條ニ依ラス離縁ノ手續ヲ爲サシムルヲ相當トス

四棄兒發見届ナルモノハ出生届出義務者カ不明ナルタメ止ムコトヲ得ス此届出ヲナサシメ出生届ニ代ラシメタルモノナレハ既ニ其父又ハ母カ現出シテ新ニ出生届ヲナシ本條後段ニヨリ棄兒發見登記ヲ取消ス以上ハ棄兒發見ノ事實ハ當初ヨリ之レナカリシモノト同一ノ結果トナリ從テ棄兒カ一家創立ノ事實モ亦同樣ノ結果ヲ見ルニ至ルヘキニヨリ故ラニ廢家ノ手續ヲナサシムヘキ必要ナシ

第七十七條　出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲ササル前出生子又ハ棄兒カ死亡シタルトキハ出生又ハ棄兒發見及ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ出生又ハ棄兒發見ノ届出前死亡シタル者ノ取扱方ヲ規定シタルモノナリ

第一届出方

出生又ハ棄兒發見及死亡届ハ各別ニ爲サシムルコトヲ要ス

第二身分登記及戸籍記載方

一出生後死亡シタル子ハ先ツ出生届出ヲナシ然ル後死亡ノ届出ヲナスヘキモノナレハ其出生届ニヨリ身分登記ヲナスヘキモノトス

二明治二十九年十二月二十日生ニシテ就籍届漏レトナリ居リ右ハ戸主ハ他ヘ出寄留中寄留地ニ於テ右届漏子死亡シ寄留先則非本籍地戸籍吏ニ於テ身分登記簿ヘ登記ノ上本籍地ニ送付シタリ然ルニ本人ハ就籍届漏レニテ無籍者ナリ斯ル場合ニハ第七十一條ノ届出義務者ヲシテ死亡シタル子ノ

出生届ヲナサシメ其登記ヲ爲シタル後死亡ノ登記ヲナスヘキモノトス

非本籍人ノ子カ出生届ヲ爲サヽル前死亡シタルトキト雖モ出生届及死亡届ヲ爲サヽル可ラス而シテ私生子カ出生届出期間内ニ入ルヘキ家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ出生ノ届書ニ戸主ノ家ニ入ルコトヲ得サルニ因リ一家ヲ創立スル旨ヲ記載スヘク戸籍吏ハ非本籍人出生及死亡ノ身分登記ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

第三　命名前ノ死亡者

一　爰ニ出生子アリ命名前卽チ生後三十分ヲ經テ死亡ス此場合ニ於テハ命名前ト雖モ出生届及死亡届ヲ同時ニ徴シ戸籍役場ニ於テ取扱フヘキモノトス但届書ニ命名前ナル旨ヲ記載セシムヘシ

二　子ノ出生後命名ニ至ラスシテ死亡シタル旨ノ届出アリタルトキハ出生登記死亡登記ヲ爲シ戸籍ノ名ヲ記スヘキ處ニ未タ命名セサル旨ヲ記載スルヲ相當トス

三　私生子カ命名前死亡スル場合ト雖モ戸籍ヲ編製シ其副本ヲ地方裁判所ヘ送付スヘキハ勿論ニシテ地方裁判所ヘ送付スヘキ戸籍ノ副本モ死亡ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第四　死産

死産ナルトキハ姙娠ノ月數ニ拘ハラス本法ニ規定シタル出生及死亡ノ届出ヲナスヘキモノニアラス

第五　出生届カ無効ナリシトキノ取扱方

戸籍吏カ同一人ニ關スル出生届ト死亡届トヲ受理シ身分登記其他ノ手續ヲ完了シタル後ニ於テ右出生届カ無効ナル届出ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ更ニ其者ニ關スル出生届ヲ爲サシムルコトヲ要スルコトハ本條ノ規定ニ依リ明了ナルニ付死亡届濟ノ者ニ對シ更ニ出生届ヲ爲スモ差支ナシ

第七十八條　航海中ニ子ノ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乘航者中ヨリ選ミタル證人ノ前ニ於テ第六十八條ニ揭ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名捺印シ且證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ

駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三ケ月內ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日內ニ之ヲ父母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

本條ハ航海中ニ出生アリタル場合ヲ規定シタルモノナリ

航海日誌ノ謄本ノ送付ニ基キ登記シタル後ニ屆出タルトキ及屆出ニヨリ登記シタル後航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキハ屆書若クハ送付ヲ受ケタル航海日誌ノ謄本ハ其儘ニ差置キ登記其他ノ手續ヲ爲スヲ要セス

舊慣例集

第二十二回目次

四十七　長女ノ相續權……ろ頁數
四十八　失踪中ノ家族アル養戸主ノ離緣……三八七
四十九　長女ノ相續權……三八八
五　十　同上ノ件……三八八
五十一　二女ノ婿養子ノ相續權……三八九
五十二　尊族ノ離別……三九〇
五十三　戸主死亡跡失踪中ノ長男ノ相續權……三九〇
五十四　平民ノ女戸主ノ入夫婚姻……三九一
五十五　聾唖者ノ後見……三九二
五十六　叔姪間ノ婚姻……三九二

愛媛縣知事伺（明治二十三年六月十二日）

玆ニ男子ナク女子ノミ數名アリ其長女ヲ措キ二女ヘ相續セシムルトキハ其父（戸主）ノ在生中ト否トニ拘ハラス男子ト同樣長女廢嫡ノ手續ヲ爲サシムヘキヤ將其父死亡ノ際ニ限リ該手續ヲナサシメ其存生中ハ親族協議ニ任セ可然哉至急何分ノ御指揮相成度此段相伺候也

司法大臣指令（明治二十三年六月二十日）

本年六月十二日庶第一九六〇號伺女子相續ノ件ハ前段見込ノ通

千葉縣知事照會（明治二十三年七月四日）

左記ノ事項ニ係ル養戸主モ本人ノ情願ナレハ養家離緣生家ヘ復籍シ得ヘキヤ果シテ離緣シ得ルモノトセハ地方廳ニテ聞屆ケヘキモノナルヤ

一　家族養父一人ノミニテ養父ハ去ル十九年中失踪現今行衛知レサル者

一　養戸主本人ハ病身ニシテ勞役ニ堪ヘス一家ヲ維持スル能ハサル者

一　養家ハ失踪中ナル養父以外他ニ相續スヘキモノナシ

一　養家ハ失踪中ノ養父ノ新立ニ係リ其生國タモ知レサル者

一　養家ニ對スル親戚更ニナシ

一　養家ニ對スル財產更ニナシ

司法省民事局長回答（明治二十三年七月十一日）

本年七月四日庶收第一壹二四號ヲ以テ照會相成候失踪中ノ家族アル養戶主離緣生家ヘ復籍ノ件ハ廢家ノ上失踪者ヲ携帶スル歟若クハ跡相續人ヲ定メサル限リハ單ニ離緣ノ特許ヲ與フヘキモノニ無之ト思考致候尤本件ノ如キハ貴廳限リ御取扱可相成義ニ有之候此段及御回答候也

宮崎縣知事伺（明治二十三年六月二十八日）

長女ヲ措キ二女ヲシテ相續セシメ或ハ長二女ヲ措キ三女ヘ聟養子ヲ迎ヘ相續セシムル等ハ長二女ノ廢嫡ヲ要セサル旨別紙寫ノ通山形縣及ヒ石川縣ヨリ內務省ヘ伺御指令ノ趣モ有之本縣ニ於テモ同例ニヨリ取扱來候處去ル二十年島根縣ヨリ御省民事局ヘ問合セ同局回答ニヨレハ右ノ如キ場合長二女ノ順序ニ依リ廢嫡ヲ要スル趣戶籍執務類纂ト題スル書中ニ相見ヘ候右ハ果シテ廢嫡ヲ要スル筋ニ候哉

（別紙略）

司法大臣指令（明治二十三年七月十二日）

本年六月二十八日第五六二號伺女子廢嫡ノ件ハ後段見解ノ通廢嫡ノ手續ヲ爲ス可キモノト心得ヘシ

鹿兒島縣知事伺（明治二十三年三月二十六日）

一士民ノ戶主死亡シ男子ナク女子ノミ數名有之且養子モ迎ヘ難キ事故アリテ家督ハ長女ヲ措キ二女ヘ相續セシムル場合ニ於テハ長女ハ男子ト同シク廢嫡ノ手續ヲ爲スヘキ儀ニ候哉果シテ然ラハ女子ト雖トモ男子同樣ノ相續權ヲ有スル儀ト相心得可然哉

一前條果シテ然ルトキハ長女ヲ措キ二女ヘ婿養子ヲ迎ヘ該養子ヘ相續セシムル場合ト雖トモ順次廢嫡ノ手續ヲ爲シタル上ニアラサレハ難相成儀ニ候哉將タ

之レ等ハ相續スルニ非ラス單ニ血統ヲ繼續セシムルニ候ヘハ何レノ女子ニ婿養子ヲ迎ヒ相續セシムルモ廢嫡ノ手續ヲ爲スニ及ハサル儀ト相心得可然哉

一尊族離別ノ儀ハ假令雙方協議ニ出ルト雖トモ輙ク村長又ハ市長ヘ届出ニ止ムルトキハ社會ノ秩序ヲ紊亂スルノ嫌ヒナシトセス依テ右ハ出願爲サシメ篤ト調査シ直ニ不得止モノニ限リ許可スヘキ儀ト相心得可然哉

司法、内務兩大臣指令（明治二十三年八月三十日）

第一項　伺之通

第二項　二女ニ婿養子ヲ迎ヘ嗣子ト爲ストキハ其長女ハ廢嫡ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

第三項　兩家協議ノ上送籍スル場合ニ於テハ届出ニ止メ出願スルニ及ハサルモノトス

北海道廳長官伺（明治二十三年七月九日）

戸主死亡跡相續權ハ其長男ニ有之處長男ハ數年以前失踪ノ故ヲ以テ其他ノ家族ヲシテ相續爲致度親族協議出願スル者アリ右ハ一家ノ存亡ニ關シ事實無餘儀モノハ聽屆可然哉此段相伺候也

司法大臣指令（明治二十三年九月十七日）

本年七月九日第四九七號伺長男失踪戸主死亡跡相續ノ件ハ事情止ヲ得サル場合ニ於テ親族協議出願スルモノハ長男失踪後十ヶ月以上經過シタルトキハ廢嫡聽許苦ラス

千葉縣知事照會（明治二十三年九月二十四日）

婦女子相續ニ付テハ明治六年第二百六十三號公布ノ趣モ有之候處右公布ハ今仍ホ華士族ニノミ適用セシムル儀ニ有之候哉果シテ然ラハ平民ノ女戸主ニシテ夫ヲ迎ヘ其夫ニ戸主ヲ讓ルト否ラサルトハ女戸主ノ意見ニ任セ差支無之哉何分ノ御答有之度此段及御照會候也

司法省民事局長回答（明治二十三年十月一日）

本年九月二十四日庶收第一六二〇號ヲ以テ婦女子相續ニ付キ明治六年第二百六

人事判例集

十三號布告ハ今仍ホ華士族ノミニ適用セシムル哉又平民女戸主ニシテ夫ヲ迎ヘ其夫ニ戸主ヲ讓ルト否トハ女戸主ノ意見ニ任セ差支ナキヤノ件ニ付キ御照會ノ趣了承致候右ハ平民ト雖トモ華士族相續法ニ準シ可取扱儀ト思考ス此段及御回答候也

第二十二回目次（明治三十三年分）

○推定家督人相續ノ離籍……は頁數三三三
○認知ノ擧證……三三四
○幼者ノ養育料……三三八

ヘカラスト論シタル所以ナリ然ルニ原判決カ民法第七百四十四條ヲ曲解シ推定家督相續人ノ離籍ハ同法第七百五十條第二項ニノミ限ルモノナリト判定シタルハ法則ノ適用ヲ誤リタル違法アリト云フニ在リ

按スルニ民法第七百四十九條ニ家族カ戸主ノ意ニ反シテ其居所ヲ定ムルコトヲ得ス其第二項ニ家族カ前項ノ規定ニ違反シテ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサル間ハ云々其第三項ニ前項ノ場合ニ於テ戸主ハ相當ノ期ヲ定メ其指定シタル場所ニ居所ヲ轉スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ家族カ其催告ニ應セサルトキハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得云々ト規定シ在リテ一見戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者ハ何人ト雖モ家族ナレハ法定ノ推定家督相續人ニ對シテモ此ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ヘキカ如シト雖モ飜テ同法第七百四十四條ヲ閲スルニ法定ノ推定家督相續人ハ一家ヲ創立スルコトヲ得サル旨ヲ規定シ其例外トシテハ止タ同法第七百五十條第二項即チ家族カ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要スル規定ニ違反シテ婚姻又ハ養子緣組ヲ爲シタルトキハ戸主カ離籍ヲ爲シ又ハ復籍ヲ拒ム結果一家ヲ創立スル場合ニ係ル規定ノ適用ヲ妨ケスト在ルノミニシテ同法第七百四十九

條第三項ノ規定ノ適用ハ之ヲ認メサルカ故ニ推定家督相續人ノ離籍ハ同法第七百五十條第二項ノ場合ノ外ハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトスト解釋スルヲ相當トス隨テ原院カ前記法文ヲ解釋シテ本件ノ如キ居所ノ指定ニ從ハサル推定家督相續人ニ對シテハ戸主ニ離籍ノ權ヲ與ヘサルモノトス云々ト判決シタルハ洵ニ相當ニシテ上告論旨ノ如キ法則ノ適用ヲ誤リタル違法ナシ乃チ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ本件上告ハ理由ナキモノトシ之ヲ棄却スル所以ナリ

○認知ノ擧證

（明治三十三年(オ)第三百拾九號同三拾三年十月十三日第一民事部判決）

右當事者間ノ私生子認知事件ニ付東京控訴院カ明治三十三年五月四日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ハ原院ニ於テハ證人宮澤長藏及鏑木セキノ供述ニヨリ上告人ト被上告人生母エイト私通シタリト認定シタレトモ右證人宮澤長藏ハ上告人トハ一面識モナク且ツ如何ナル人物ナルヤヲ知ラスシテ第一審ノ法廷ニテ始メテ知リ得シモノニシテ實ニ信ヲ置クニ足ラス此ノ證言ハ現ニ取調ヘタル第一審裁判所モ信用セサルコトハ同判決ニヨリテモ明ラカナリ又證人鏑木セキモ其ノ當時上告人トハ一面識モナク且ツ如何ナル人物ナルカヲ知ラサルコトハ同人ノ陳述中「前略其ノ池永岩吉ト云フコトハエイカ左樣申シテ居タル故知リ居レリ」云々「昨年十月四日池永方ノ近所ヲ通行セシ際俄ニ雨カ降リ出シ或人ノ軒下ニ之ヲ罷メテ居タル處何人カ池永サンカ通ルト申シタルヨリ岩吉ノ跡ヲ就ケテ岩吉方ニ到リ云々」ニヨリテモ明ラカニテ右二名ノ證人ハ被上告人等トハ懇親ニテ本件ノ事情ヲ被上告人等ヨリ聞及ヒ又ハ本件ノ事ニ關シ依賴ヲ受ケタルコト等ハ同人等ノ證言及被上告人生母小林エイノ陳述中ニヨリテモ明ラカナリ依テ此等ノ點ニヨリテモ右二證言カ信ヲ置クニ足ラサルニ原院ハ此ノ二供述ヲ以テ上告人ト被上告人生母エイト私通ノ結果被上告人ノ出生シタルモノト認定シタルハ事實ヲ不法

ニ確定シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ抑モ證人ノ證言ヲ採用スルト否トハ原院ノ專權ニ屬スルヲ以テ原院ニ於テ證人宮澤長藏嫡木セキノ證言ヲ採用シ事實判定ノ材料ト爲シタルモ上告人ニ於テ其當否ヲ論シ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

上告第二點ハ上告人生母エイト互ニ私通シタリトスルモ此點ノミニテ被上告人カ上告人ノ子ナリト斷定スルコト能ハサルモノナリ凡ソ法律上婚姻中夫婦ノ間ニ出シタル子ハ其ノ夫タル男子ト子ト推定スヘキモノナレトモ單ニ私通ノ關係ヲ有シタルトテ其一方カ分娩シタル子カ其一ノ男子ノ子ト推定スヘキモノニアラス依テ被上告人カ上告人ノ子ナリト主張スルニハ被上告人ノ子カ上告人ノ子ノナリトノ事實確タル立證ヲナスヘキモノナリ然ルニ被上告人カ此擧證ノ責任ヲ盡ササルニモ拘ラス原院カ被上告人ト上告人生母エイト私通ノ結果出生シタルコトヲ推知スヘキモノナリト認定シタルハ擧證ノ責任ヲ誤リタル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ既知ノ事實ニ依リ未知ノ事實ヲ推定スルハ原院ノ專權ニ屬ス故ニ他ヨリ其當否ヲ論シ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス乃チ原院ニ於テ證人

ノ證言ニ依リ上告人ト被上告人ノ生母ト私通シタル事實ヲ認メ此既知ノ事實ニ依リ被上告人ハ右私通ノ結果出生シタルモノト未知ノ事實ヲ推定シタルモノナレハ上告論旨ノ如キ不法アルモノニアラス

上告第三點ハ原院ハ控訴人及其法定代理人ノ訊問決定ノミニシテ被控訴本人タル上告人ニ對シ期日呼出狀ニ本人訊問ヲ必要トシテ本呼出シナレハ代理人ヲシテ出頭セシムルヲ得ストテ上告人ヲ呼出シ訊問シタルハ訴訟手續ニ違背シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在リ依テ案スルニ原院ニ於テ本人訊問ノ決定ヲ爲サスシテ上告人ニ對シ前揭ノ如キ呼出狀ヲ送達シタルハ其當ヲ得サルモ本件ハ元來上告人自ラ訴訟ヲ爲スモノナルノミナラス上告人ニ於テ右呼出ノ期日ニ出頭シ何等ノ異議ヲ述ヘス口頭辯論ヲ爲シタルコトハ原院ノ法廷調書ニ徵シテ明カナリ左スレハ原院ニ於テ右ノ手續ニ依リ呼出狀ヲ送達シタルカ爲メ毫モ上告人ノ防禦權利ヲ害スル所ナキヲ以テ原判決ヲ破毀スル理由トスルニ足ラス

右ノ理由トナルヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

㊀幼者ノ養育料

（明治三十三年(オ)第七拾六號同三十三年四月十四日第一民事部判決）

右當事者間ノ幼兒引取竝養育料請求事件ニ付名古屋控訴院カ明治三十二年十一月二十五日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲナシタリ

判　決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理　由

上告趣旨ノ第一ハ原判決ノ末段ニ於テ而シテ其養育料ノ額ニ付テハ被控訴代理人ハ之レヲ認メサレトモ控訴代理人カ主張スル一個月二圓五十錢十三個月分三十二圓ノ金額ヲ相當ナリト認定ス云々ト說明シタル不當ノ裁判ナリ蓋シ右金額ニ付テハ上告人ニ於テ否認スル所ナル以上ハ須ラク被上告人ニ於テ主張ノ金額ハ何レノ途ニ之レヲ費消シタルヤヲ證明セサルヘカラス然ルニ原院ハ何等ノ證明ナキニモ拘ハラス漫然相當ナリト認定シタルハ採證ノ原則ニ背キタル違法ノ

裁判ナリ假リニ被上告人ノ證明ナキニ拘ハラス尙職權ヲ以テ裁判所カ數額ヲ定メ得ヘシトスルモ此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ少クトモ其定タル金額ノ根據トナルヘキ理由ヲ說明セサルヘカラサルヤ論ヲ俟タス然ルニ前述ノ如ク原院ハ何等ノ說明モナク上告人不認スル金額ヲ被上告人ノ爲メニ相當ナリト判斷シタルハ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在リ

然レトモ原判決ハ其理由ノ冒頭ニ於テ先ツ被上告人カ上告人ノ次男光次ナル者ヲ預リ居リタルコトハ當事者間爭ナキ所ナリト判示シテ養育料負擔ノ原因ヲ明ニシタルヲ以テ其金額ノ多寡ノ如キハ裁判所ノ心證ヲ以テ判斷スルコトヲ得ヘキモノニシテ必スシモ當事者ノ立證ヲ待ツノ要ナキモノトス故ニ原院カ被上告人ノ主張シタル金額ヲ相當ナリト判斷シタルハ要スルニ其專權ヲ以テ事實上ノ推定ヲナシタルニ外ナラスシテ採證ノ法則ニ背キタルモノト云フヲ得ス又事實上ノ推定ハ裁判所カ自由ノ心證ヲ以テナスモノナレハ其心證ノ由來スル所ノモノハ必スシモ說明スルノ要ナシ故ニ原院カ「一個月二圓五十錢十三個月分三十二圓ノ金額ハ相當ナリト認定ス」ト判示シタル相當云々ノ語ハ卽チ判決ノ理由ニシ

テ本論旨ノ末段モ亦上告ノ理由トナラス

上告論旨ノ第二ハ上告人カ第一審以來答辯スル所ハ上告人ニ於テ決シテ任意預ケ入レタルモノニアラスト云フニ在リ而シ此抗辯タル若シ合意上預ケ入レニ非ル限リハ從テ養育料ヲ上告人ニ於テ支拂フニ至ルモ不當ノ利得ニ關スル規定ニ依リテ支拂フヘク換言セハ契約ナルカ將タ準契約ナルカハ本件數額ヲ定ムルニ於テ主要ノ論點ナリトス然ルニ原裁判所ハ上告人カ右抗辯ヲナシ居ルニモ拘ハラス其判決理由ニ於テ云々其預クルニ至手續ハ控訴代理人主張ノ如ク被控訴人カ光次及其母けうヲ突然控訴人方ヘ連レ行キ預ケタリトスルヲ被控訴人代理人主張ノ如クけうノ母こうナルモノカ連レ出シタリスルモ控訴人カ預リ居ル間養育料ハ其監護ノ義務アル被控訴人ニ於テ支辯スルヲ要スルコト論ヲ俟タス云々ト說明シ契約上ノ原因ニ出ツルモノト不當ノ利得ニ由テ生スル請求トノ間ニハ其數額ニ於テ顯著ナル差異アルコトヲ無視シ以テ兩者ヲ混同シ上告人カ抗辯ニ付テ何等ノ判斷ヲモ與ヘス右樣ノ說明ヲ爲シタルハ民法ノ規定ニ背キ且爭點ニ付キテ裁判セサル違法ノ判決ナリト云フニ在リ

然レトモ原判決ノ趣旨ハ上告人カ養育スルノ義務アル光次ヲ被上告人ニ於テ養育シタルカ故ニ其間ノ養育費ハ契約ノ有無ニ關セス上告人カ負擔スル義務アリト云フニ在リテ卽チ不當利得ノ法則ニ依リテ判斷シタルコトハ原判決ノ全體ヲ通讀スレハ自ラ明瞭ナリ而シテ光次ハ任意上預ケタルモノニアラストハ上告人カ主張シタル所ニシテ此點ニ付テハ原院ハ上告人ノ主張ヲ容レテ判斷シタルニ外ナラス要スルニ本論旨モ亦上告ノ理由トナラス

上告論旨ノ第三點ハ本件ニ於テ養料支拂ハ上告人ニ於テ義務アリト假定スルモノ上告人カ被上告人ニヨリ光次ヲ引取ルコトハ上告人ニ於テ爭ハサル所卽チ幼兒引取ノ請求ハ上告人カ被上告人ヲシテ本訴ヲ提起スルニ至ラシメタルニアラサルコトハ第一審以來上告人ノ答辯スル所現ニ第一審裁判所ハ此點ヲ判斷シタリ然ルニ原院ハ第一審ノ事ヲ其判決書ニ援用シタルニモ拘ラス全部ノ訴訟費用ヲ上告人ヲシテ負擔セシメタル事ト理由ト符合セサル違法ノ裁判ナルノミナラス民事訴訟法第七十四條ニ違背セル不法ノ裁判ナリトスト云フニ在リ

然レトモ原判決ニ援用シタル第一審ニ於ケル上告人ノ陳述シタル事實ノ摘示ニ

依レハ「被告(上告人)ハ原告被上告人請求ハ却下アリタシト申立云々然ルニ原告ハ今日ニ至ルマテ被告ノ妻子ヲ差戻サスシテ却テ本訴ヲ提起シタルハ不當ナリヲ以テ之ニ應スル能ハスト主張シタリ」ト明揭シ本訴ニ於テハ上告人カ被上告人ノ請求ヲ拒絕シタルコト明ナリ而シテ民事訴訟法第七十四條ノ規定ハ被告カ直チニ原告ノ請求ヲ認諾シタル場合ニ非サレハ適用スルヲ得サルモノトス然レハ則チ從令上告人ハ被上告人ヲシテ本訴ヲ提起スルニ至ラシメタル事實ナシトスルモ本條ヲ適用スヘキ限リニ在ラス故ニ本論旨モ亦理由ナシ

上來判示シタル理由ニ依リ本院ハ民事訴訟法第四百三十九條初項ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

外國婚姻令集

第二十二號目次

○英國婚姻條例(承前)

英蘭土ノ婚姻式ニ關スル諸法律改正條例……九五

ル有夫婦人獨占財產設定(マリヲ、セツル、メント)ノ部ニ於テ之ヲ詳論セン又夫カ遺言ヲ以テ妻ニ其所有財產ヲ遺贈スルコトハ夫婦同體主義ニ基因シタル夫婦不能契約ノ原則ニ合ハサルカ如キ觀アリト雖夫ノ遺產相續ハ夫ノ死亡ニ因テ夫婦關係斷絕シタル時始メテ其効ヲ顯ハスモノナレハ遺贈ハ法律ニ於テ之ヲ許ス又妻ハ夫ノ代人タルコトヲ得此點モ亦一見夫婦相離レルカ如キ觀アリト雖蓋シ、然ラス妻ハ唯夫ノ爲メニ其代理ヲ勤ムルコトヲ許サレルノミニシテ夫婦同體主義ニハ決シテ戻ラサルナリ夫婦同體主義ハ一ニハ聖書ニ則リ二ニハ夫婦利害得喪同一ナルノ天理ヨリ出テ又三ニハ家庭ノ紛爭ヲ豫防スル政策ニ因リタルモノナリ而シテ其主義ノ民刑訴訟事件ニ於ケルヤ舊法ニ於テハ夫ハ妻ノ利益ノ方ニモ又其不利益ノ方ニモ證人タルコトヲ得ス妻モ亦夫ノ利益ノ方ニモ又其不利益ノ方ニモ證人タルコトヲ得スト云フヲ原則トナシ唯夫カ謀叛罪ヲ犯セル場合ト其妻ノ身體ニ暴行ヲ加ヘタル場合トヲ右原則ノ例外トナシ妻ニ同件ノ證人タルコトヲ許セシガ其後舊法改正セラレ現行法ニ於テハ夫婦孰レモ其一方ノ關係スル訴訟事件ニ付其一方ノ利益ノ爲メニハ證人タルコトヲ得ルヲ原則トナシ之カ例外トシテ刑事訴訟ニ付

テハ夫ハ妻ノ利益ノ爲メニモ其不利益ノ方ニモ證人タルコトヲ得スト雖妻ハ夫ノ利益ノ爲メニモ其不利益ノ方ニモ證人タルコトヲ得特ニ夫ノ姦通罪ノ場合ノ加キ裁判所ハ妻ヲ同件ノ證人トシテ召喚スルコトヲ得又夫婦間ノ通信ハ民刑訴訟ノ種類如何ンヲ論セス夫婦孰レモ法廷ニ於テ之ヲ開申スヘキ義務ナシトス此二點ヲ例外トシ其他ノ場合ニ於テハ夫婦ハ各々其一方ノ利益ノ爲メニハ證人タルコトヲ得ルモ其不利益ノ爲メニハ證人タルコトヲ得サルヲ原則トス

二　有夫婦人保護主義ヲ適用スル方面

夫婦ハ或ル目的ノ爲メニハ一面ニ於テ前記ノ如ク同體一人ト爲スト雖又他ノ目的ノ爲メニハ他面ニ於テ互ニ別人ト爲シ妻ハ夫ノ庇護ヲ受クルモノト定ム此方面ハ(甲)妻ノ身體ニ關シテ夫ノ有スル權力、(乙)妻ノ財產、(丙)妻ト第三者トノ契約其他ノ取引、(丁)有夫婦人獨占財產設定(戊)別居養料ノ五部ニ分ツコトヲ得ヘシ

甲　妻ノ身體ニ關スル部

妻ハ古來夫ノ權力下ニ在リ夫ハ之カ爲ニ妻ヲ保護シ且之ニ對シテ相當ノ拆檻ヲ加ヘルコトモ暗々裡ニ黙許セラレテアリシカ「チヤールス」第二世ノ代ニ於テ夫ニ斯カル檻拆權ヲ許與スルノ可否ヲ疑フモノ輩出シ竟ニ近年ニ至リテ妻ハ夫ニ對シテ平穩生活ノ保證ヲ求ムルコトヲ得夫モ亦妻ニ對シテ同樣ノ保證ヲ求ムルコトヲ得ルニ至レリ然レトモ裁判所ハ尙ホ多少ノ行狀ニ付夫ニ自由束縛權ヲ許シ夫ヲシテ妻ノ大失行ヲ豫防セシム

乙　妻ノ財產ニ關スル部

(イ)　不動產ノ部

妻カ婚姻ヲ爲ス時所有スル不動產若ハ其結婚後其夫ノ生存中ニ所有スル不動產ハ夫婦兩人ノ共有ニ屬シ夫ハ妻ニ依テ之ヲ所有スルモノト認メラレ妻ノ生存中其財產ノ管理權及收益權ヲ有スル而已ナラス又其處分權ヲ掌握スルモノトス隨テ妻ノ不動產ハ夫ノ債務ニ對スル强制執行ノ目的物トナリ妻死亡シテ夫生存スレハ妻ノ財產ハ夫一人ノ專有物ト化ス又夫ハ妻ノ生存中ニ此種ノ財產ヲ隨意ニ處分スルヲ得ルコト前記ノ如シト雖唯之ヲ他人ニ讓ルヘキ遺言ヲ爲スコト能ハス又夫死亡シテ妻生存スレハ妻ハ夫婦關係ヲ脫シ夫ノ被保護者タル位地ヲ去リテ單獨人トナリ隨テ右ノ不動產ハ妻固有ノ權利ニ依リテ妻一人ノ專有物トナリ

戸籍法令大全

死亡シタル夫ノ遺產管理人ノ手ニ移ラス又夫カ財產上其妻ニ屬シテ有スル權利ハ妻カ自身ノ權利ニ對スル財產ニ對スルニ限ルモノニシテ妻カ他人ノ權利ニヨリテ所持スル財產ニ及ハス卽チ妻カ他人ノ遺產管理人タル資格ヲ以テ他人ノ財產ヲ管理スル場合ニ於ケル其財產ハ固ヨリ夫ノ干涉スヘキ限ニ在ラス

夫ニシテ生前ニ妻ノ權利ヲ殺減スヘキ手續ヲ爲サヾルトキハ妻ハ其夫死亡ノ時其夫ノ生前ニ所有シタル土地ノ三分ノ一ヲ寡婦財產トシテ受取リ自己ノ生存中之ヲ所有スヘキ權利ヲ有ス

（ロ）動產ノ部

妻カ婚姻ヲ爲ス時所有スル動產若ハ其結婚後其夫ノ生存中ニ所有スル動產ハ概シテ夫ノ所有トスルヲ原則トス而シテ其例外ノ場合ヲ擧クレハ妻カ婚姻前ヨリ有スル債權ハ夫ニ於テ其辨濟ヲ得タルトキハ其辨濟金ハ夫ノ所有ニ歸スト雖未タ辨濟ヲ得サル間ハ依然妻ノ債權ニシテ夫カ妻ニ先チテ死スルモ妻カ夫ニ先チテ死スルモ夫婦生存中ニ債務者ヨリ其辨濟ヲ受ケサル以上ハ依然妻ノ所有タリ但妻カ夫ヨリ先キニ死亡シタル場合ニ於テハ夫ハ妻ノ遺產管理人タル資格ヲ以

第二十二號目次

一 沖繩縣區制……ほ頁數 一六六

書記ハ議長ニ隷屬シテ庶務ニ從事ス

議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シテ會議ノ顚末竝出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ

會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名捺印スヘキモノトス

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ區長ニ報告スヘシ

第四章　區ノ財務

略

第五章　區內一部ノ行政

第八十四條　區內ノ一部ニシテ所有財產若クハ營造物ニ付其ノ部限リ特ニ其ノ費用ヲ負擔スルトキハ沖繩縣知事ハ區會ノ意見ヲ聞キ內務大臣ノ許可ヲ得テ財產營造物ニ關スル事務ノ爲部會ヲ設クルコトヲ得

前項部會ノ組織選擧職務權限處務規程等ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

第八十五條　前條ニ記載スル事務ニ付此ノ勅令ノ規程ニ依リ難キ事項其ノ他部

ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

第六章　區行政ノ監督

第八十六條　區行政ハ第一次ニ於テ沖繩縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第八十七條　此ノ勅令ニ規定スル異議訴願若クハ訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若クハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ二十一日以内ニ提起スヘシ但シ此ノ勅令中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八十八條　監督官廳ハ區行政ノ法律命令ニ背戻セサルヤ其ノ事務錯亂澁滯セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲ニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算決算等ノ書類帳簿ヲ徵シ並實地ニ就テ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閱スル權ヲ有ス

監督官廳ハ區行政ヲ監督スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス權ヲ有ス

内務大臣ハ沖繩縣知事ノ區行政ニ關シテ爲シタル命令若クハ處分ヲ停止シ若クハ取消スコトヲ得

第八十九條　沖繩縣知事ハ區ノ豫算中不適當ノ支出ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得其ノ支出ヲ消滅シタル場合ニ於テハ之ニ相當スル收入ヲ削減スヘシ

前項沖繩縣知事ノ處分ニ不服アル區會ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第九十條　區會ノ解散ハ内務大臣之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選擧スヘシ

沖繩縣知事ハ十日以内ニ於テ區會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第九十一條　區條例ノ設定ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第九十二條　左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　區債ヲ起シ並借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但シ第七十七條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二　特別稅ヲ新設シ若クハ變更スル附加稅ヲ賦課スル事

三　直接國稅二分ノ一ヲ超過スル

四　間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
五　國庫ヨリ直接ニ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事
第九十三條　左ニ揭ク事件ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
一　區規則ヲ設定スル事
二　使用料手數料ヲ新設シ若クハ變更スル事
三　縣廳ヨリ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事
四　學藝美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物件ノ賣却交換讓渡質入書入若クハ大ナル變更ヲ爲ス事
五　區有不動產ノ賣却交換讓渡竝質入書入ヲ爲ス事
六　基本財產及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事
七　各種ノ保證ヲ與フル事
八　繼續費ヲ定メ若クハ變更スル事
九　均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
十　第七十二條第七十三條ニ依リ區住民ノ一部若クハ區內ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

十一　第七十四條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事
第九十四條　沖繩縣知事ハ部長委員其ノ他吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス
前項解職ノ處分ハ職務ニ違背シ若クハ職務ヲ曠廢スル者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者ニ對シテハ之ヲ行フモノトス
隨時解職スルコトヲ得サル吏員ニシテ第一項解職ノ處分ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得其ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第七章　附則

第九十五條　此ノ勅令施行ノ時期ハ內務大臣之ヲ定ム
第九十六條　此ノ勅令ヲ施行スル場合ニ於テ初メテ區ト爲ス地ハ那覇首里ノ各區城トス
第九十七條　此ノ勅令ニ於テ直接稅若クハ間接稅トスヘキ類別ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第九十八條　此ノ附則ニ規定スルコトヲ除ク外此ノ勅令施行ニ付必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

●沖繩縣間切島規程（明治三十一年十二月勅令第三百五十二號）

朕沖繩縣間切島規程ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣間切島規程

第一條　間切島ハ法人トシ官ノ監督ヲ受ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝法律命令又ハ慣例ニ依リ間切島ニ屬スル事務ヲ處理スルモノトス

第二條　間切島吏員ノ組織任免職務權限及處務規定等ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三條　間切島會ノ組織選擧職務權限處務規定及間切島長ト間切島會トノ權利義務ノ關係竝間切島會ノ監督ニ關スル事項ハ内務大臣ノ許可ヲ經沖繩縣知事之ヲ定ム

第四條　間切島有財産及營造物ノ管理ニ關スル事項ハ法律命令中別段ノ規定ア

◉改正刑法ニ付キ新著書紹介ノ廣告

司法大臣　松田正久閣下題字
司法次官（法學博士）　河村讓三郎閣下題辭
大審院部長（法學博士）　富谷鉎太郎閣下序
内務省警保局長　古賀廉造閣下序
司法省民刑局長　平沼騏一郎閣下序
司法省參事官　谷田三郎先生校閲
日本法令審査會主事　宍戸深藏著

新刑法實用

（四版）

菊版四百八頁
總クロース綴上製
定價　金壹圓五拾錢
送費金拾錢三部以上送費不要

本書ハ逐條講義トシ各頁ヲ三段ニ區別シ上欄ニ舊刑法ヲ掲ケ、中欄ニ新刑法、下欄ニ改正ノ理由ト説明トヲ詳述ス

本書ハ未ダ江湖ニ顯ハレザル材料ニ依リテ編纂著述シタルモノナリ

申込所　東京市神田區今川小路三丁目六番地　明倫館

石籍叢書

明治四十一年十月十五日發行（毎月一回十五日）

第貳拾參號

石籍學會

戸籍叢書第二十二號　（毎月一回十五日發行）

（明治三十三年十一月十七日第三種郵便物認可）

最近に
共溫社で
專賣特許と（第一二五一〇號）
實用新案と（第四九七二號）
を得ました

天下無比の
裏毛靴下と裏毛足袋
とが出來ました

一手發賣元

此の
◎嶄新◎
靴下と足袋
とが特許を得たのは
次ぎの特色があるからです

（一）裏には一面に毛を織り出して居ります
（二）寒中でも足が温かです
（三）持ちが三倍です
（四）直段が安いです
（五）色が變はりません
（六）鼻緒、靴ずれが出來ません
（七）長く坐りましても足が痛みません
（八）色は黑、紺、白、ヲリーブ、エビチヤ種々あります
（九）大人なれば足の大小にかまはず履けます
（十）何度でも洗ひがきゝます

此れほど德用のものが次ぎの賣價です

裏毛靴下
裏毛足袋

〔毛製　一足　金五十錢
〔綿製　一足　金二十五錢

〔毛製　一足　金三十錢
〔綿製　一足　金二十錢

◎足袋は御得意樣から十德足袋と云ふ名前を頂戴致しました
△取次販賣を御望みの向は至急申込ありたし

東京市小石川區大和町八番地　國益社

和漢三八二號

戸籍法實用

○催　告

本會質疑錄代幷ニ叢書代御未
納ノ向ハ必ス遲滯ナク至急御
拂込相成度候也

明治四十一年十月

戸籍學會

第二十三號目次

		頁數
第七十九條		三四一
第八十條		三四七
第一	認知ノ場合	三四八
第二	認知者ノ身分	三五三
第三	被認知者ノ身分	三五九
第四	届出	三六三
(一)届出人		三六三
(二)届出地		三六三
(三)届書ノ數		三六三
(四)届書ノ記載方		三六四

第三節　嫡出子否認

第七十九條　嫡出子否認ノ裁判カ確定シタルトキハ否認者ハ裁判確定ノ日ヨリ一ケ月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル者ニ付テハ登記ノ變更ヲ申請スルコトヲ要ス

一　子ノ名及ヒ男女ノ別

二　出生ノ年月日

三　否認ノ裁判カ確定シタル年月日

本條ハ嫡出子否認ノ裁判カ確定シタル場合ニ於ケル届出方竝ニ登記變更ノ手續ヲ規定シタルモノナリ

第一　嫡出子否認ノ場合

嫡出子ノ否認ハ前夫ノ子カ又ハ姦通ノ結果生シタル子ニ付テ生スル問題ナルモ例ヘハ養子カ養家ニ於テ婚姻ヲ爲シ離緣ノ際妻ヲ其儘ニ差措キ單獨ニテ實家ニ復籍シタル後事實上別人ヲ妻ト爲シ又養家ニ在ル妻ハ其間他ノ男子ト通シ其間ニ生シタル二子ヲ私生子トシテ届出ヲ爲シタリ此場合ニ於テ之ヲ訂正セントスルニハ先ツ養子カ妻トノ離婚届ヲ爲サスシテ離緣ノ届出ノミヲ爲シ實家ニ復籍シタル上ハ妻ハ夫ト共ニ其家ニ入ルヘキモノナルニ付キ身分登記變更ノ手續ニ依リ離緣ノ身分登記ヲ變更シ妻ノ入除籍ノ手續ヲ爲シタル後妻トノ離婚届ヲ爲スヘシ又二子ハ實際私生子ナルニモセヨ夫妻間ノ婚姻中ノ子ナルニ付第二百三條ノ抗告ニ依リ兩人ノ私生子出生ノ身分登記及ヒ戸籍記載ヲ取消シ更ニ嫡出子出生届ヲ爲サシメ一旦實家ニ入籍セシメタル後嫡出子否認ノ手續ヲ爲スヘシ

第二　届出方

否認者ハ出生登記變更ノ申請書ニ私生子カ入籍スヘキ家ノ戸主ノ同意證書ヲ添付スヘク若シ戸主カ同意ヲ爲ササルトキハ一家創立ノ旨ヲ申請書ニ記載スヘシ

第三　登記及戸籍取扱方

嫡出子否認ノ裁判確定シタル場合ニ於テ否認者ヨリ第七十九條ニ依リ否認ノ届出及出生登記變更ノ申請ヲナシタルトキハ戸籍吏ハ其届出ニ因リ附錄第一號ノ二嫡出子否認ノ部第一號ノ振合ニ依リ身分登記ヲナシ且ツ變更ノ申請ニ因リ出生登記中父ノ氏名ヲ抹消シ續柄ヲ私生子男(女)ト訂正シ附錄第一號出生ノ部第二號欄外登記例ノ振合ニ依リ登記ノ欄外ニ其旨ヲ記載シタル後子ノ戸籍事項欄ニハ附錄第三號第七ノ振合ニ依リ記載ヲナシ父ノ氏名ヲ朱抹シ續柄ヲ訂正スヘシ

嫡出子否認ノ裁判確定ノ結果否認者カ其届出ヲ爲スニ當リ其子カ母ノ家ニ入ル能ハサル爲メ同一戸籍吏管内ニ於テ一家創立ヲ爲ストキハ身分登記簿否認ノ部ヘ否認及ヒ一家創立ノ事由ヲ登記シ且ツ出生ノ登記變更ノ手續ヲ爲シ而シテ後其子ハ否認者ノ戸籍ヨリ除籍ノ上新ニ私生子ノ戸籍ヲ編製シ

テ戸主トナリタル原因及年月日欄ニ(何郡何村何番地戸主族稱氏名續柄)父否認母ノ入ルコトヲ得サルニ因リ一家創立明治何年何月何日届出同日受付)ト記載シ母ノ氏名及母トノ續柄ヲ相當ノ欄ニ記載シタル後前ノ戸籍吏ヨリ私生子ヲ除籍スヘシ

若シ其一家創立地カ他ノ戸籍吏ノ管轄内ナルトキハ最初嫡出子出生ノ登記ヲ爲シタル地ノ戸籍吏ハ否認届出ト同時ニ爲ス登記變更ノ爲メ其子ノ本籍カ其管轄ニ屬セサル場合トナルヲ以テ右否認ノ登記及ヒ出生登記變更ノ手續ヲ爲シ而シテ更ニ非本籍人出生ノ登記ヲ爲シ其届書ハ第三十六條第一項ニ依リ新本籍地戸籍吏ニ送付スヘキモノナリ

但通常ノ私生子出生ノ登記例ニ依リ身分登記ヲ爲シ登記文ハ「右出生年月日届出同日受附年月日嫡出子否認ノ届出及ヒ出生ノ登記變更申請同日受附」ト記載スヘシ

又嫡出子否認ノ届出ヲ受ケタル戸籍吏ハ第三十六條第二項ノ規定ニ準シ嫡出子出生届否認届登記變更申請ノ謄本ヲ作リ之ヲ一家創立地ノ戸籍吏ニ送付スヘク同戸籍吏ハ送付ヲ受ケタル書類ニ因リ單ニ通常ノ私生子出生ノ身分登記例ニ依リ身分登記ヲ爲シ登記文ハ「右出生年月日何區戸籍役場ヘ届出同日同區戸籍吏何某受附年月日嫡出子否認ノ届出及ヒ出生ノ登記變更申請同日受附同月何日届書及ヒ申請書發送同日受附」ト記載スヘシ

第四節　私生子認知

第八十條　私生子認知ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一　子ノ名及ヒ男女ノ別

二　出生ノ年月日

三　死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日

四　父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

前項第四號ノ場合ニ於テ母カ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸主ト母トノ續柄ヲ記載ス

ルコトヲ要ス

本條ハ認知ノ届書ニ記載スヘキ事項ヲ規定シタルモノナリ

第一　認知ノ場合

一　父カ私生子ヲ其出生前ニ認知シタル場合ノ外ハ先ツ母ヨリ出生届ヲナシタル後父ヨリ認知届ヲナスヘキモノトス

二　男子アリ正婚ニヨラス一子ヲ擧ケ其出生届ヲナスニ當リ私生子認知ヲナサス直ニ庶子出生届ヲナセリ此ノ場合ニ於テハ私生子届庶子認知届ノ二個ノ届出ヲナスヘキモノトス然ルニ反對論者ハ父ノ知レ居ル以上ハ認知届ヲ要セス直ニ庶子出生届出ニテ足レリト云フモ民法竝ニ戸籍法ニ云フ認知ナルモノハ父ノ知レ居ルノ事實ヲ云フニアラスシテ一ノ行爲即認知ノ届出ヲ指シタル者ト云ハサルヲ得ス何トナレハ民法八百二十九條ニ認知ハ戸籍吏ニ届出ルニ依テ之ヲナストアルヲ以テナリ故ニ實際父ノ知レ居ルノ一事ヲ以テ直ニ認知ト云フヲ得ス懷胎中ノ認知ニ在テハ先ニ認知ノ届出ヲナシ後ニ出生ノ届出ヲナスヘク出生後ハ之ニ反ス左スレハ出生ト同時ニ認知スル場合ニ在テモ二個ノ届出ヲ要ス但父ヨリ庶子出生届ヲ爲ス可キモノナルトキハ其届書中ニ認知ノ旨ヲ記載セシメ別ニ認知届ヲ徴セサルモ差支ナシ

私通ノ後一男ヲ生シ之ヲ私生子トシ届出テ其後兩人間有効ノ婚姻ヲナシタルモ又故アツテ離縁ス而シテ右離婚後夫タリシ者ヨリ一男ヲ認知セシ場合ハ婚姻中之ヲ認知セハ嫡出子タル身分ヲ取得ヘキモ既ニ婚姻解消後ナルヲ以テ庶子トシ登記スヘキモノト信ス

三　無籍ノ女子ハ就籍ノ手續ヲ爲シタル上私生子出生届ヲ爲シ而シテ父ヨリ認知ノ届出ヲ爲スヘシ

民法實施前甲女ノ私生子ナル乙女アルモ未タ其出生届ヲナサヽルマヽ無籍者ト爲リ居ル者アリ而シテ實施後甲女ハ丙男ニ嫁シ乙私生子ハ事實甲丙間ノ子ナルヲ以テ嫡出子トシテ丙ノ籍ニ入ラントスルニハ先ツ甲女ノ私生子出生届ニ基キ一旦私生子トシテ身分登記ヲ了シ而シテ民法第八百三十六條第二項ニ依ルヘキモノトス

竝ニ夫婦アリ妻ハ明治二十一年七月二日ニ入籍届ヲナシ爾來同居セリ然ルニ右妻ノ入籍ハ前記ノ如クナルモ其實明治十四年六月十七日ヨリ内縁ノ夫婦タリシヲ以テ入籍以前ニ於テ甲乙ノ男女ヲ擧ケタルモ届出ヲ怠リタリ右更訂ヲ爲サシメントスルニハ甲女ト乙男ニ付キ妻ヨリ私生子出生届ヲ爲サシメタル上夫ヨリ認知ノ手續ヲ爲サシムヘシ

新民法實施前ノ結婚ニシテ二百日以内ニ在テ新法實施後其婦出產セリ然ルニ其事實ハ内縁中懷胎セシモノナルヲ以テ父ヨリ嫡出子トシテ届出タル時ハ認知届ヲナスニ及ハス

四　民法施行前ノ認知ハ認知セラレタル子カ認知シタル父ノ家籍ニ入ルニアラサレハ其効ナキモノナルニ付更ニ民法ノ規定ニ因リ認知ノ手續ヲ爲ニ非ラサレハ子ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得ス

民法施行前ノ認知ハ其認知セラレタル子ノ認知シタル父ノ家籍ニ入ルニアラサレハ其効ナキモノナルニ付キ母ノ家ニ在ル私生子ヲ庶子ト爲サントスルニハ更ニ民法ノ規定ニヨリ認知ノ手續ヲ爲サヽルヘカラス

五　婚姻中ノ認知

母ヨリ私生子トシテ届出タル子ヲ婚姻中父ニ於テ認知セントスルトキハ認知届ヲ爲スヘク未タ其出生届ナキ子ナルトキハ先ツ母ヨリ私生子出生届ヲ爲シタル後ニアラサレハ父ニ於テ認知届ヲ爲スコトヲ得ス

母ヨリ私生子トシテ届出タル子カ婚姻中父ニ因リテ認知セラレタルトキハ民法第八三六條第二項ニ因リ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得スルモノトス

甲男乙女アリ民法施行後其間ニ私生子ヲ擧ケ未タ私生子出生届ヲ爲サスシテ甲乙婚姻ヲ爲セリ此場合ニ於テハ母ヨリ私生子届ヲ爲サシメ其届出ニ基キテ母ノ家卽チ現在夫タル父ノ家ニ入リ父之ヲ認知スルニ因リテ嫡出子ト爲スコトヲ得右ハ其事實カ民法施行前ニ生レタルト否トニ拘ラス又外國在留中ノコトナルト否トヲ問ハサルナリ

入夫婚姻前其夫ト内通シ擧ケタル子女ヲ入夫婚姻後數月ヲ經テ其子ノ出生届ヲナサントスル場合一旦妻ノ私生子トシテ戸主(夫)ノ同意ヲ得テ出生

届出ヲナサシメ然ル後夫ヨリ認知届出ヲナサシムヘシ此ノ場合私生子認知登記中子女ノ肩書ハ庶子トセス直チニ（別ニ何等ノ手數ヲ要セス）長ニ女ト登記スヘキナリ

甲女アリ乙男ト私通中一女ヲ擧ケ甲女ノ私生子トシテ其家ニ入籍シ後甲乙正當ノ婚姻ヲ爲シタル上數年ヲ經テ右私生子ノ養子トシテ乙ノ家ニ入籍セリ然ルニ今日ニ至リ右養子トシテ入籍シタルヲ悔ミ其養子タル私生子ヲ認知シ嫡出子トナサントスルモノアリ此ノ場合ニ於テハ私生子認知ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

六　母ノ認知

民法第八百二十七條中母ニ於テ私生子ノ認知ヲ爲スコトヲ得ル場合ハ例ヘハ母カ出生子ヲ棄テ後ニ至リ認知ヲ爲ス如キ場合ヲ謂フモノナルカ故ニ無配偶ノ女カ懷胎シタル子ノ出生アリタルトキ出生届書中私生子ナルコトヲ明記シ母ヨリ届出タルトキハ第八十條ノ届出ヲ要セス

棄兒ノ母ハ第七十六條ニ依リ其子ヲ引取リ私生子出生届ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ又同條ニ依ラス認知届ヲ爲シ廣家ノ上其兒ヲ家籍ニ入ルヽコトヲ得ルモノトス

七　認知者カ戸主ノ同意ヲ得ルコト能ハサル場合ヲ除ク外子ハ認知ニ因リ當然父ノ家ニ入ルヘキモノナルニ付キ在籍ノ儘認知スル如キ特別ノ届出ヲ爲スコトヲ得ス

第二　認知者ノ身分

一　日本人タル父カ外國婦女ノ私生子ヲ認知スルニ方リ私生子認知届出ヲ爲シタルトキハ其私生子ハ國籍法第五條第三號ニ依リ日本ノ國籍ヲ有シ而シテ其出生本國ノ原籍ニ對シ國籍ノ喪失ニ關シテハ認知者若クハ戸籍吏ハ何等ノ手續ヲモ要セサルモノトス

外國人カ甲地本籍者ナリシ私生子ヲ非本籍地タル乙地戸籍吏ニ對シ認知届ヲナシタル場合ニハ

甲戸籍吏ハ外國人ノ認知ニヨリ日本人カ國籍ヲ喪失セシ場合ニ被認知者ヨリ其届出ヲナシタルトキハ卽チ認知ノ結果當然日本ノ國籍ヲ喪失

セシモノナルヲ以テ別ニ外國人ノ認知届出ハ之レヲ要セス單ニ國籍喪失届出ノミニテ足レリトノ説ト

乙戸籍吏ハ單ニ自己ノ志望ニヨリ外國ノ國籍ヲ取得スル即チ國籍法第二十條ノ場合ハ甲戸籍吏ノ見解ニテ可ナルナランモ苟モ喪失ノ原因カ其ノ他ノ場合タル即チ認知等ニアルトキハ必ス認知届ト喪失届ヲ要スヘキ事ハ當然ノ義トス何トナレハ同法第二十三條ニ日本人タル子カ認知ニヨリテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ云々又同第二十四條ニ滿十七年以上ノ男子ハ已ニ陸海軍ノ現役ニ復シタルトキ又ハ之ニ服スル義務ナキトキニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハス等ノ規定アリテ假令認知届アリトスルモ必然國籍ヲ喪失スルノ結果トスルモノニアラサル事ハ昭宇タル而已ナラス尚ホ之レカ届出ニ至ッテモ彼此其人ヲ異ニセル點ヨリ考察スレハ全ク兩者其事件ノ性質ヲ異ニシ決シテ始終相隨伴スヘキモノアラサルヲ以テ從テ登記モ之レヲ各別ニセサルヘカラス故ニ假令喪失ノ原因カ認知ニアル場合ト雖モ別ニ認知届ヲ要スヘキハ自明ノ理ナラントス今若シ甲戸籍吏ノ如キ見解ヲナサンカ外國人ハ獨リ私生子認知届出ハ之レヲ爲ス事能ハスト斷言セサルヘカラス從テ絶對ニ國籍ヲ喪失セル者ニ對スル單純ナル認知届ハ又是レヲ受理スヘカラサルモノトセサルヘカラス豈ニ如斯條理ノ存センヤ故ニ認知届ト喪失届ハ各別ニ之レヲ要スヘキモノトスルノ説アルモ後説ヲ可トス但シ認知届ハ第三十四條ニ依リ國籍喪失届ハ第三十五條ニ依リ取扱フヘキヤ勿論ナリ

二私生子認知ハ出生ノ時ニ遡ホリテ其効力ヲ生スルモノニ付父カ認知ニ因リ他家ニ入ル場合ニ於テハ子ハ當然父ニ隨ヒテ其家ニ入ルヘキモノトス」戸主タル父カ私生子ヲ認知シタル場合ニ於テハ認知届ニヨリ直チニ入籍手續ヲナスヘク民法第七百三十七條戸籍法第百四十六條ノ届出ヲナスニ及ハス

戸主カ他家ノ家族タル私生子ヲ認知スルトキハ被認知者ノ戸主ノ同意及第四十六條ノ入籍手續ヲ要セス認知ノ登記ニ因リ直ニ父ノ家ニ入ルモノ

トス

㊂認知届書ニ入籍スヘキ家ノ戸主ノ同意證アルトキハ其届出ニ因リ入籍ノ取扱ヲ爲スヘシ但シ去ルヘキ家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

被認知者カ認知者ノ家籍ニ入ルコトニ付テハ民法第七百三十三條第八百三十二條ノ規定アルニ因リ認知届ノ外別段ノ届出ヲ要セス唯其認知者カ家族ナル場合ニ於テハ被認知者ノ入籍ニ付キ戸主ノ同意ヲ要スルカ故ニ(第七百三十五條)其同意ヲ證明セシメサルヘカラス而シテ其證明ノ爲メニ届書ニ特別ノ書面ヲ添付セシメ又ハ附記ヲナサシムルハ民法戸籍法ノ規定ト抵觸スルモノニ非ス

戸主タル父カ認知ヲ爲ストキハ勿論家族タル父カ認知ヲナストキト雖モ戸主ノ同意ヲ證スルトキハ子ハ認知ニ因リ當然父ノ籍ニ入ルモノニシテ別ニ入籍通知ヲ要セス而シテ認知者ト被認知者ト戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ雙方ニ於テ身分登記ヲ爲サヽルヘカラサルニ付戸籍法第三十三條第二項參看届書モ正副二通ヲ要スルモノトス(戸籍法第五十三條第二項參看)

戸主タル父カ私生子ノ認知ヲ届出ルトキ又ハ戸主ノ同意ノ證書ヲ添ヘテ家族タル父ヨリ認知ノ届出ヲ爲シタルトキハ身分登記ヲナシタル上父ノ家ニ入籍セシメ現在ノ籍ヨリ除籍スヘク認知シタル父カ家族ニシテ戸主ノ同意ナキ場合ニ於テハ戸籍法取扱手續附錄第三號九ノ例ニ依リテ戸籍ノ記載ヲナシ入籍ノ二字ヲ除クヘシ此場合ニ於テ後日民法第七三七條戸籍法第一四六條ノ手續ヲ爲シタルトキハ認知シタル父ノ家ニ入ルコトヲ得ヘシ

家族カ私生子ヲ認知スルニ當リ其届書ニ戸主ノ同意ノ證明ヲ添付シタルトキハ別ニ第百四十六條ノ入籍届ヲ爲スコトヲ要セス直チニ其子ヲ戸主ノ家ニ入ルルコトヲ得ヘシト雖モ既ニ認知届及ヒ入籍届ヲ受理シ身分登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ其届書ノ送附ヲ受ケタル戸籍吏ニ於テモ其儘

㊃認知ノ際家族ノ庶子ヲ戸主ノ家ニ入ルルコトニ付戸主ノ同意ヲ得ルコト

能ハス認知届出ノ後ニ其同意ヲ得タル場合ニ於テハ特ニ戸籍法第百四十六條ノ届出ヲ爲スコトヲ要スヘシト雖モ認知ノ當時已ニ戸主ノ同意アル場合ニ於テハ庶子ハ民法第七百三十三條第一項第七百三十五條第一項ニ因リ父ノ家ニ入ルモノナルニ付特別ノ入籍届ヲ要セス直ニ入籍スルヲ相當トス

五家族カ私生子ヲ認知スル場合ニ於テ其届書ニ戸主ノ同意ノ證明書ヲ添ヘタルトキハ直ニ其子ヲ戸主ノ籍ニ入ルルコトヲ得ヘシ若シ戸主ノ同意ヲ得スシテ認知届ノミヲ爲シタルトキハ身分登記ノ外私生子ノ戸籍事項欄ニ附錄第三號ノ九ノ例ニ依リ入籍ノ二字ヲ除キ卽チ左ノ如ク記載ヲ爲シ其續柄欄ハ從前ノ儘差置クヘシ而シテ其後ニ認知者カ戸主ノ同意ヲ得テ庶子ヲ其家ニ入レントスルトキハ第百四十六條ニ依リ入籍届出ヲ爲スヘキモノトス

明治參拾壹年七月壹日子丑縣寅卯郡村長巳五番地戸主族稱甲野甲私生子認知届出同日受附入籍㊞

六未成年者ト雖モ第四十七條民法第八百二十八條ニ依リ自ラ認知届ヲナスコトヲ得ヘシ

第三　被認知者ノ身分

一養子ノ子女ハ其私生子トシテ届出アルヘキ筈ニシテ養親カ養子ノ私生子ヲ認知スルコトハ法律上妨ナシ

二戸主ナルトキ

被認知者カ他家ノ戸主ナルトキハ認知ニ因リテ當然父ノ家ニ入ラス法律ノ規定ニ依リ廢家又ハ隱居ヲ爲シタル後其家ニ入ルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ第百四十六條ノ入籍届ヲ爲スコトヲ要ス但シ父カ認知シタル事實ヲ以テ民法第七百六十二條ノ正當ノ事由又ハ七百五十三條ノ已ムコトヲ得サル事由ト爲スコトヲ得サルヘシ

被認知者カ家族ナルトキハ別段ノ入籍届ヲ要セス認知届及其登記ニ因リ直チニ入籍ヲ爲スヘシ其者カ戸主ナリシト雖モ民法第七百六十二條ニ依リ廢家ヲナシタル後廢家シテ父ノ家ニ入ラントスルニハ別段ノ入籍届ヲ

爲スコトヲ要スヘシ

母ノ家ニ入ルコトヲ得スシテ一家ヲ創立シタル私生子ヲ父カ認知スル場合ニ於テ廢家ノ後認知セラレタルトキハ廢家届ト認知届トニヨリ父ノ家ニ入ルコトヲ得ヘク之ニ反シ認知セラレタル後廢家シテ父ノ家ニ入ラントスルトキハ入籍届ヲ爲スヘキモノトス

甲縣ノ婦女乙縣ニ滯留中私生子ヲ出生シタリ甲縣婦女ノ戸主入籍承諾セサルニ因リ民法第七百三十五條ニ依リ一家創立ノ旨届出タリ而シテ出生後六日目父ヨリ籍ヘ入ルル旨ヲ以テ認知届出テタリ然ルトキハ第百五十二條ニ依リ廢家ノ手續ヲ踐行スルニ非サレハ父籍ニ入籍スルコトヲ得ス但シ未成年者タル私生子ノ創立シタル家ハ之ヲ廢スルコトヲ得ヘシト雖モ其私生子カ意思ノ能力ヲ有セサレハ民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ認知セラレタル父ノ家ニ入籍スルコトヲ得サルカ故ニ認知シタル父ハ認知届ヲナスノミニ止メ私生子カ其能力ヲ有スルニ至ル迄一家創立ノ儘ニ爲シ置クノ外ナカルヘシ

三推定家督相續人トナルトキ

私生子カ父ニ依リテ認知セラレタルトキハ民法第八三二條ニ依リ出生ノ時ニ遡リテ同第七三三條第一項ノ效果ヲ生スヘキニ付認知前母ノ法定ノ推定家督相續人タリシ時ト雖モ認知ニ因リ父ノ家ニ入ルモノト爲ス

私生子カ法定ノ推定家督相續人タルトキハ父ニ於テ該私生子ヲ認知シ引取リタルトキハ廢除ノ裁判ヲ受クルヲ要セス

四妻又ハ養子ナルトキ

私生子カ婚姻、緣組ニ因リテ他家ニ入リ又ハ分家等ニ因リテ戸主ト爲リタル場合ニ於テ其家ノ戸主ヨリ認知セラレタルトキハ離婚、離緣、廢家、隱居等ノ手續ヲ爲スニ非ラサレハ其家ヲ去ルコトヲ得サルニ付キ認知届ノミニ因リテ父ノ家ニ入ルコトヲ得ス之ニ反シ第百四十六條ニ依リ他家ニ入リタル場合ニ於テハ認知届ノミニ因リテ父ノ家ニ入ルコトヲ得ヘシ又認知者カ他家ニ入リタル場合ニ於テハ認知届ニ其家ノ戸主ノ同意ヲ證スル書面ヲ添付シタルトキニ限リ私生子ヲ其家ニ入ルコトヲ得ヘク若シ戸主ト

爲リタル場合ナルニ於テハ認知届ニ因リテ直チニ子ヲ其ノ家ニ入ルコトヲ得ヘシ

認知セラルヘキ私生子カ母ノ家ニ在リテ夫ヲ迎ヘ居ル場合ニ於テハ届出地及ヒ母ノ本籍地戸籍吏ハ認知ノ身分登記ヲナシ妻タル私生子ノ戸籍事項欄ニ認知ノ事項父ノ氏名欄ニ其氏名ヲ記載シ父母トノ續柄欄内ノ記載ヲ訂正スヘシ又養子縁組婚姻等ニ因リテ他家ニアル場合ニ於テハ届出地及ヒ養親若クハ夫ノ本籍地戸籍吏ハ認知ノ身分登記ヲ爲シ養子若クハ妻タル私生子ノ戸籍事項欄ニ認知ノ事項父ノ氏名欄ニ其氏名ヲ記載シ父母トノ續柄欄内ノ記載ヲ訂正スヘシ而シテ此等ノ場合ニ於テハ私生子ノ入除籍ノ手續ヲ爲スヘカラス之ニ反シ私生子カ母ノ家ニ在リテ妻ヲ迎ヘ居ル揚合ニ於テハ父及ヒ母ノ本籍地戸籍吏ハ認知ノ身分登記ヲ爲シ夫タル私生子ノ戸籍事項欄ニ認知ノ事故父ノ氏名欄ニ其氏名ヲ記載シ父母トノ續柄欄内ノ記載ヲ　ヒシ私生子及ヒ妻ヲ父ノ家ニ入籍セシタル後除籍ノ手續ヲ爲スヘシ

甲家ノ戸主カ乙家ノ私生子ヲ認知シタルトキハ甲認知者ノ家ニ入ルコト疑ナシト雖モ該私生子カ乙家ニ在ラス丙某ノ養子ト成リタル場合ハ甲ハ單ニ認知ヲ爲シ而シテ民法第七百三十七條ニ依リ自己ノ家族ト爲スヲ得ヘク若シ丙ノ推定相續人タルトキハ單ニ認知ヲ爲スニ止マリ甲ノ家ニ入ルコトヲ得ス

第四　届出

(一)届出人

民法第八百二十八條ノ當事者ハ未成年者ナルトキト雖モ第四十六條ニ依ラス當事者自ラ届出ヲ要ス

(二)届出地

私生子認知届出ヲナスヘキ場合ニ於テ其私生子ノ本籍ト認知スヘキ父ノ本籍ト其管轄ヲ異ニスルトキハ其認知ノ届出ハ第四十二條ニ依リ父ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ヘ届出ッヘシ

(三)届書ノ數

一　海外在留者ニシテ私生子認知ノ届出ヲ爲ス場合ニハ戸籍法第五十三條ノ規定ニ依リ正副二本ヲ差出サシムヘシ

二　數人ノ私生子ヲ同時ニ認知スル場合ニ於テ其認知届書ハ一人毎ニ各別ニ差出サシムヘキモノナレトモ甲戸籍吏ニ於テ誤テ連名ノ届書ヲ受理シ身分登記ヲ爲シタル以上ハ其届書ノ送附ヲ受タル乙戸籍吏ハ之ヲ受理スルヲ相當トス

認知届ハ認知セラルヘキ子一人ニ付一通ヲ差出スヘキモ連名ノ認知届ヲ受理シ既ニ身分登記及ヒ戸籍記載ヲ爲シタル上ハ其儘届書及ヒ入籍通知書ヲ本籍地戸籍吏ニ送付シ然ルヘシ

(四)届書ノ記載方

一　私生子ノ母カ其家ヲ去リタル後父ヨリ認知ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ第八十條第一項各號ニ掲ケタル事項ノ外同條第二項ニ準據シ母カ家族タリシ家即チ其去リタル家ノ戸主ノ氏名等ヲ記載セシムルヲ相當トス

二　婚姻中ノ認知

私生子カ父母ノ婚姻中ノ認知ニ因リ嫡出子タル身分ヲ取得スル場合ニ於テハ被認知者ハ届出事件ノ本人ナルニ付キ別段認知ノ届書ニ其事由ヲ記載スルニ及ハス

父母婚姻中ノ認知ナルトキハ子ハ認知ノトキヨリ嫡出子ノ身分ヲ取得スルモノナルモ認知届書ニハ別段嫡出子ノ身分取得ノ旨ヲ記載スルニ及ハス婚姻中父カ母ノ私生子ヲ認知スル場合ニハ届出ニ母ノ連署ヲ要セス

届書ニハ何某妻某私生子男女某ト記載シ身分登記ニハ何某男女ト記載スヘシ

届書ニハ被認知者ノ肩書ニ私生子男女ト記載スヘク戸籍ニハ長二男女ト記載スヘキモノトス但他ノ嫡出子トノ順位ハ年齡ニ依リ定ム

届書ハ左ノ振合ニヨリ記載セシメ身分登記及ヒ戸籍ノ記載ハ戸籍法取扱手續附錄第一號ノ三第一號及ヒ同附錄第三號ノ九ノ振合ニ依リ之レヲ爲スヘシ但シ身分登記中被認知者ノ頭書ヲ長男ト記載スヘク又第三號ノ九ノ記載例中入籍ノ文字ヲ除クヘキモノトス

舊慣例集

私生子認知屆

吉備郡箭田村百番地戸主農幸一郎養女
母　石田梅
私生子男　松太郎
年月日生

右婚姻中私生子認知及御屆候也
明治何年何月何日

戸主幸一郎養子平民農
認知者
石田竹藏

吉備郡箭田村戸籍吏某殿

第二十三號目次（二十三年分）

五十五　成年聾唖盲戸主ノ後見……ろ頁數三九三
五十六　叔姪間ノ婚姻……三九三
五十七　幼嗣子ト母トノ間ニ於ケル相續順位……三九四
五十八　亡戸主ノ長男失踪中ニ男ノ相續權……三九五
五十九　家名ノ讓渡並ニ養父失踪中養子ノ實家復籍方……三九五
六　十　軍人及ヒ常人ノ事實上ノ婚姻ノ效力……三九六
六十一　未成年者ノ養子貰受……三九八

山口縣知事伺（明治二十三年九月十八日）

第一條　丁年以上ノ戸主ハ縱令聾唖盲者ト雖トモ癲癇白痴ノ外ハ後見人設立難相成旨內務省ヨリ御指令ノ趣モ有之候哉ニ相覺候處右等自ラ家務措辨シ得サルモノニ於テハ有事ノ都度隨時代理人ヲ以テ措辨スルノ道ハ有之候得共然ル時ハ其煩ニ耐ヘ難ク且其身分家產ニ有益ナル人物ノ選任ヲ謬ルノ患モ間々免レサルヘク然ルニ後見人選定ニ付テハ其方式モ有之無害有益ニシテ且權利冒侵ノ嫌モ無之次第ニ付右ハ親類ノ協議ニ據リ任意後見人設立シ得セシメ可然哉

第二條　叔姪ノ離緣セシ妻及ヒ其遺妻ハ一旦實家復籍又ハ他ノ養女トナシタル上ハ血屬ノ續柄モ無之モノニ付隨意結婚セシメ可然哉

司法大臣指令（明治二十三年十月一日）

第一條　聾唖盲者ト雖モ人事ヲ辨知シ得サルモノヽ外ハ後見人ヲ置可カラサル義ト心得可シ

第二條　叔姪間ニアッテハ隨意結婚難相成義ト心得可シ

福島縣知事伺（明治二十三年九月二十五日）

戸主死亡遺留子アルモ幼少ニシテ家業上ノ都合ニ依リ相續スル能ハサルヨリ其遺留子成年迄實母ニ於テ相續致度旨願出ノ向有之右ハ假令母ニ於テ一時相續スルモ遺留子ハ自然同人ノ嗣子ナルヲ以テ敢テ相續權ヲ失フモノニアラサルモノヽ如ク被存候得共又轉シテ一方ヨリ考フレハ遺留子ハ父ノ死亡跡ヲ直チニ相續スヘキ順序ナルヲ以テ假令一時タリト雖トモ繼承ヲ中止スル姿ニ相成候ニ付遺留子廢嫡ノ處分ヲ爲スニアラサレハ實母ニ於テ相續スルヲ得サル筋ナル哉

但本文若シ廢嫡ニ屬セサルモノトセハ母ノ相續ハ親族協議ニ任セ苦シカラス候哉此段添テ相伺候也

司法大臣指令（明治二十三年十月三日）

本年九月二十五日庶第九八四號伺相續ノ件ハ實母相續スル場合ニ於テハ幼嗣子ハ廢嫡ヲ要スル義ト心得可シ

愛知縣知事問合（明治二十三年九月三十日）

長ニ男アル戸主死亡シ跡相續人タル長男失踪中ニ付親族熟議失踪ノ故ヲ以テ廢嫡シ二男相續セントスルモ其長男失踪後十ケ月ヲ經サルトキハ家名相續時日遷延スルトモ允許シ難キ筋ニ候哉果シテ然ラハ逃亡失踪ノ事故ヲ以テ廢嫡ハ假令事情止ムヲ得サルモノト雖トモ十ケ月以内ハ總テ允許ス可カラサル儀ニ候哉

司法省民事局長回答（明治二十三年十月六日）

本年九月三十日庶外第七四號付ヲ以テ長ニ男ヲ有スル戸主死亡長男失踪中ニ男跡相續ハ長男失踪後十ケ月ヲ經サルトキハ家名相續時日遷延スルモ允許シ難キヤ又事情止ヲ得サルモノト雖トモ十ケ月以内ハ總テ允許スヘカラサル儀ナルヤ御照會ノ趣了承致候右ハ御意見ノ通ニテ可然義ト思考ス此段及御回答候也

東京府知事伺（明治二十三年十月六日）

養子ニシテ戸主トナリタル者離縁生家へ復籍セントスルニ方リ其家ニハ前戸主タル養父ノミアリテ右養父ハ目下失踪中ニ有之此場合ニ於テ養實親族ノ叶議整

ヒタル上ハ假令養父ノ承諾ナキモ離縁差支ナキヤ類例モ無之ニ付至急何分ノ御指揮ヲ仰キ候也

司法、内務兩大臣指令（明治二十三年十月二十一日）

本年十月六日第六三一四號伺養子戸主離縁之件失踪者ニ家名ヲ譲ル義ハ不相成義ト心得ヘシ但相續人ヲ定メタル上離縁スルカ若クハ廢家ノ上養父ヲ携帯復歸スルハ本人ノ望ニ任スヘシ

東京府知事伺（明治二十三年十月十一日）

凡ソ婚姻ノ取組ハ明治八年第三百九號達ニ依リ双方ノ戸籍ニ登記セサル内ハ其效ナキ義ハ勿論ナルモ武官ノ如キ陸軍大臣ヨリ結婚條例ニ據リ與ヘラレタル結婚認可書幷ニ同大臣ヘ差出シタル結婚濟屆書等ノ如キモノアリテ戸籍ニ登記以前縁組シタル事實ノ證明確實ナルトキハ之ヲ戸籍登記以前ニ遡リテ夫妻ト認ムルモ差支無之哉若シ差支無之トスレハ戸籍上入籍年月ニ合セテ結婚年月ヲ記載シテ其關係ヲ明ニスルモ差支無之哉又武官ニアラサルモ確實ナル證據アルモノハ渾テ本文同樣取計苦シカラスヤ差掛候義有之候條至急何分ノ御指揮相成度此段相伺候也

司法大臣指令（明治二十三年十月十八日）

本年十月十一日第六四五八號婚姻ノ效ニ付伺ノ件ハ總テ明治八年第二百九號達ニ依ル可キモノトス

（別紙）

參照

明治八年十二月九日第二百九號達

婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離婚離縁縱令相對熟談ノ上ナリトモ雙方ノ戸籍ニ登記セサル内ハ其效ナキ者ト看做スヘク候條右等ノ屆方等閑ノ所業無之樣精々說諭可致置此旨相達候事

使　村　縣

愛知縣知事問合（明治二十三年十月三十一日）

人事判例集

一丁年未滿ノ戸主養子（嗣子トスル者ト否トノ別ナリ）貰受ケノ義ハ自己ヨリ年少者ト雖トモ不相成儀ニ候哉將タ別ニ成規モ無之儀ニ付親族熟議止ムヲ得サル事情アルモノハ差支無之儀ニ候哉

一前條前段ノ如ク不相成儀トスルモ其幼戸主十五年以上ト相成親族ノ評議見込ヲ以テ既ニ後見人解除ノ者ニ在テハ差支無之筋ニ候哉

司法省民事局長回答（明治二十三年十一月七日）

本年十月三十一日第三外第七號付ヲ以テ丁年未滿ノ戸主養子貰受ノ件ニ付御問合ノ趣了承右ハ未丁年者ニシテ養子貰受クル義ハ相成ラサルモノトス

第二十三號目次（明治三十三年分）

○民法施行前ノ嫡出子確認ノ請求……は頁數三四三
○遺產相續登記ノ效力……三四六

○施行前ノ嫡出子確認ノ請求

（明治三十二年(オ)第二百六十一號同三十三年四月十七日第一民事部判決）

右當事者間ノ嫡出實子確認請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十二年十月二十三日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲナシ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲナサシムルタメ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告論旨ノ第一ハ身分ハ權利義務ノ主體タル人ノ位置資格ナレハ身分ニシテ一タヒ定マル時ハ其親子タリ將タ兄弟タルノ位置ヨリシテ直チニ當然義務及ヒ名譽等隨伴シ來タルコト言ヲ俟タス其ノ如何ナル身分ヲ有スルヤハ卽チ直チニ權利義務ヲ有スルヤトイヘル疑問ト殆ト同一ニシテ差異ナシトイフヲ得ヘシ彼ノ民法及ヒ戶籍法等ニ於テ嚴ニ身分ノ關係ヲ規定スル所以ノモノハ權利義務ノ直

接ニ身分ヨリシテ發生シ來ルカ爲メナリ故ニ國家ハ臣民ノ身分上不確定ノ位置ニ彷徨スルヲ欲セス從テ身分爭アル場合ニ於テハ國家自カラ其位置ヲ確定ス可キモノニシテ臣民モ亦其位置ノ確定ニ關シ國家ニ向テ保護救濟ヲ與フルコトヲ容ルサルルモノナルカ故ニ身分確定ノ訴訟ニシテ全ク無益不要ナル場合ニ在テハ之レヲ却下スヘキコト勿論ナレト苟モ必要有益ニシテ他ニ確定ノ方法ナキ場合ニ於テハ國家自ラ之レニ救濟ヲ與ヘテ確定ヲ爲スヘキモノナリト信スモシ然ラスンハ臣民ハ何ニ依テ權利ヲ主張シ將タ名譽ヲ享有スルヲ得ンヤ今上告人ハ甲第五號證ノ如ク戸籍簿上棄兒ニシテ實母ハ其上告人ノ母タルコトヲ認メタレトモ其父ニ至テハ全ク不定ナリ故ニ人ノ子タルヨリシテ生スル當然ノ權利義務ヲ享有スルコト能ハサルハ勿論私生子ヲ除ク外天下何人ト雖モ享有スル所ノ人子トシテ父相當ノ名譽ヲ享有スルコトヲ能ハサル非境ニ在リ從テ直接ニ其身分ヲ定ムルコトノ必要且有益ナルコト多言ヲ須キスシテ明ナリトス然リ卽チ上告人ノ身分確定ノ訴ハ許ルスヘキモノナルコト論ヲ俟タスト信ス況ンヤ上告人カ棄兒トシテ現ニ害セラレ居ル名譽ヲ賠償ニヨラスシテ直接ニ回復スルノ方法

ハ只其身分ヲ確定スルニ在ルノミ故ニ此點ヨリ觀ルモ亦タ本訴ハ之ヲ許スヘキモノタルコト勿論ナリトスモシ國家ニシテ此ノ爭ヲ定ムルヲ得スハ將タ何處ニ向ツテカ之ヲ訴ヘン所謂無告ノ窮民ナルモノ獨リ上告人ヲ指スノ稱タルニ至ルヘシ然ルニ原院カ之ニ對シテ却下ノ判決ヲナシタルハ不當ナリト云フニ在リ按スルニ親子關係ノ如キ身分ノ確定ヲ請求スル訴ハ卽チ法律關係ノ確定ヲ請求スルモノニ外ナラサルカ故ニ目シテ以テ單純ナル事實ノ確定訴訟トナスヘカラサルヤ固ヨリ論ヲ俟タス抑民法施行以前ニ在リテハ私生子ハ父ノ認知ヲ求ムルコトヲ得サリシト雖モ嫡出子カ之ヲ求ムル權アリシコトハ實ニ本院ノ判例ニ於テ是認シタル所ナリ然リ而シテ民法ニ於テ嫡出子關係ニ付特ニ第八百二十一條ノ規定アル所以ノモノハ一ハ婚姻ノ成立要件中ニ戸籍吏ニ屆出ツルコトヲ加ヘタルト一ハ同法第八百二十條ヲ以テ嫡出子推定ノ規定ヲ設ケタルトニ由ル其結果トシテ如此推定ヲナスコト能ハサル場合ノ爲メニ本條ノ明文ヲ揭クル必要アリシカ故ニ外ナラス然レトモ民法施行以前ニ於テ婚姻ノ屆出若ハ戸籍ノ登錄ヲ以テ婚姻成立ノ要件ト看做サス且ツ法令ニ於テ嫡出子ノ推定ヲ規定シタルモノナ

キヲ以テ往往嫡出子ニシテ父ノ認定ヲ求ムルノ擧アルハ必至ノ理ニシテ裁判上之ヲ拒ムヘキ理由アルヲ見ス況ンヤ民法ニ於テハ私生子スラ尚且父ノ認知ヲ求ムル權アルモノト爲シタル所ヨリ之ヲ看ルモ民法施行以前ニ出生シタル嫡出子カ父ノ認知ヲ求ムルノ權アルコトハ自明ノ理ナリト云フヲ得ヘキニ於テオヤ由是之ヲ觀レハ原院カ本件ヲ以テ事實ノ確定ヲ求ムル訴ニシテ法律ニ特殊ノ規定アルニ非サレハ許ルスヘキモノニ非スト判示シタルハ不法ノ判決タルコトヲ免レス

加上ノ理由ハ原判決ノ全部ヲ破毀スルニ足ルヲ以テ他ノ上告論旨ニ付テハ一々說明セス仍テ民事訴訟法第四百十八條初項ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

遺產相續登記ノ効力

（明治三十三年(オ)第五十三號明治三十三年三月三十一日第一民事部判決）

右當事者間ノ遺產相續取消請求事件ニ付宮城控訴院カ明治三十二年十二月十五日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告趣旨ノ第一ハ原判文中「又控訴人ハ被控訴人カ控訴人代理人トナリ新乙第三號證ノ地所ニ付賣買登記ヲ受クル爲メ象潟町登記所ニ出頭シタルコトハ該登記所ヨリ取寄ニ係ル登記願書ノ如シ是レ被控訴人ノ遺產相續ヲ承諾シタルノ證ナリト云ヒ該證佐々木七五郎名下ノ印影ハ被控訴人モ亦之ヲ爭ハスト雖モ前段說明ノ如キ理由ナルヲ以テ本證被控訴人名下ノ印影ハ同人印影ニ相違ナシトスルモ到底被控訴人カ本件遺產相續ヲ承諾シテ任意ニ押捺シタル者ト認メ難シトア リ該判旨ヲ案スルニ被上告人カ新乙第三號證ニ上告人ノ代理トシテ調印シ其ノ賣買登記ヲ受ケタルモ右調印ハ本件遺產相續ヲ承諾シテ任意ニ之ヲ押用シタルモノト認メ難シ其理由ハ前段說明ノ如シト云フニ在リ依テ前段說明ノ理由ヲ視ルニ乙第一號ニ關スル各證人ノ證言採用スヘカラサルコト其遺產相續證明願ニ關スル事由ヲ判示セラレアルニ絕テ乙第三號ニ關スル說明若クハ之ニ關聯スル

理ノ視ルヘキモノ之ナシ故ニ原判ニ於テ前段説明ノ如キ理由ト云ハルル迄ニテ毫モ乙第三號ヲ排斥セラルルノ理由ノ説明ヲ與ヘラレス單ニ排斥セラレタル判定ノ結果乃チ論結ノミヲ示サレタルハ實ニ理由ヲ缺ク不法裁判ニシテ民事訴訟法第四百三十六條ノ七項號ニ該當スルト信スト云フニ在リ

案スルニ新乙第三號證ノ立證趣旨ハ上告人カ先代松吉ノ遺産ヲ相續シタルハ被上告人ノ承諾ニ出テタリトノ主張ヲ立證セント欲スルニ在リシコトハ原院ノ口頭論調書ニ依リ明白ナリ然リ而シテ原院ハ其判決理由ノ第二段ニ於テ前揭上告人ノ主張ヲ採用スヘカラサル所以ノ理由ヲ詳示シ更ラニ第三段ニ於テ新乙第三號證ヲ排斥スル所以ヲ判示シタル事ハ本論旨ニ拔用シタルカ如クナルヲ以テ原判決ノ理由ハ既ニ具備スルモノト云フ可シ故ニ本論旨ノ如ク新乙第三號證ヲ排斥スル特殊ノ理由ヲ說示セサルモノト云フヲ得ス

ルモノヲ指シテ以テ判決ニ理由ヲ附セサル不法ア

上告趣旨第二ハ原判文第一項ノ末段ニ(證人佐藤佐五兵衛ノ證言ハ信ヲ措キ難キヲ以テ亡松吉ニ於テ遺產相續ニ付遺言シタリトノ抗辯ハ之ヲ採用シ難シ)トアリ

又原判文第二項ノ冒頭ニ(親族協議ノ上ニ第一號證ノ如ク財產ハ控訴人ニ於テ相續ヲ爲シタリト云フモ證人宮本汝霖ノ證言ハ之ヲ信用シ難ク)トアリテ孰レモ該證言ヲ排斥セラレタレトモ凡ソ裁判官カ證言ノ信否ヲ斷センニハ宜シク相當ノ理由ヲ付シテ其採用スヘカラサルコトノ判示アルヘキハ當然ノ責任ナルニ原院ハ單ニ(信用シ難シ)トノ一言ヲ用ヒ其信スヘカラサル理由ヲ付セサリシハ民事訴訟法第四百三十六條第七號ニ當ル不法ノ裁判ナリト信スト云フニ在リ

然レトモ裁判所カ爭點ヲ判斷スル所以ノ理由ヲ明示シタルトキハ之ニ關スル證據方法ヲ排斥スル所以ノ理由ノ如キハ必スシモ要セサルモノトス而シテ原院ハ上告人カ佐藤佐五兵衛及ヒ宮本汝霖ノ證言ヲ以テ立證セント欲シタル遺產ノ相續ニ關スル先代松吉ノ遺言及ヒ被上告人カ上告人ノ爲シタル遺產ノ相續ヲ承諾シタル事實ノ爭點ニ付テハ上告人ノ主張ヲ排斥スヘキ所以ノ理由ヲ明示シタレハ理由ヲ附セサル不法ノ判決ト云フヲ得ス

上告趣旨ノ第三ハ被上告人七五郎ニ於テ戶主タル上ハ遺產ハ上告人ノ相續スルモ差支ナシトノ意思表示アリタル點ニ付證人宮本汝霖ノ證言ト關聯スル證憑ハ

甲第五號中ノ(遺產相續ニ付證明願)トアル書證ニシテ其文言ハ被上告人ノ求メニ依リ參考人佐々木長隆カ代書シタリト證言シ證人佐々木豐吉佐々木八十治ハ被上告人カ之ヲ持參シタルニ付其求メニ依リ調印シタリト證言シ而シテ其之ヲ爲シタルハ明治二十九年一月二十日頃若クハ其後ナリシトノ申立ニ對シ原院ハ原判文第二項ニ小出村役場ヨリ象潟町登記所ニ差出シタル相續證明書(甲第四號證中ニアリ)カ明治二十九年五月五月附ナル上ハ其基本トナリタル甲第五號ノ證明願カ明治二十九年十一月二十日頃ニ成立スヘキ謂レナケレハ證人等ノ證言ハ信用シ難シト判示セラレアリ右判示ハ該證明書成立ノ年月日ニ關スル認定ニシテ從テ證人ノ證言ヲ排斥セラレタル理由ハ明カナルモ各證人竝參考人カ被上告人ノ求メニ依リ之ヲ代書シ又ハ調印シタリトノ重要ノ事實ニ付テハ其證言ノ信否如何ヲ判定セラレサリシナリ若シ該證明書カ被上告人求メニ出テタルノ事實アラン二ハ被上告人ハ單ニ戸主タルヲ以テ滿足スルニアリシトノ證人宮本汝霖ノ證言ニ照應シ最モ必要ナル主點ナルニ原判文之ヲ判示セサリシハ則チ事實ヲ遺脫シ理由ヲ附セサルノ不法アリトス焉ク原判文ニ(共ニ信ヲ措キ難シ)トアルヲ以テ判示アリト視ルモ證明書成立年月日ノミヲ說明シ去リテ一言之ニ及ハサルハ等シク理由不備タルノ不法ヲ免カレサル然レトモ原判決理由ノ第二段ヲ通讀スルトキハ佐々木長隆等ノ證言ヲ排斥シタルハ獨其證言調製ノ日附ニ關スル點ニ止マラス被上告人ノ依賴ニ依リテ代書若クハ調印シタル事實ニ關スル點モ亦包含スルコトハ自ラ明ナリ而シテ證據方法排斥ノ理由ハ必スシモ明示スル要ナキコトハ前段ニ判示スル所ノ如シ然レハ則チ原判決ハ則チ本論指示スルカ如ク事實ヲ遺脫シ若クハ理由ヲ附セサル不法アルモノト云フヲ得ス

上告趣旨ノ第四ハ上告人ノ遺產相續證明願書ニアル(明治二十九年十一月)ノ文字ト被上告人カ法廷ニ於テ認メタル同文字ト對比シ筆蹟鑑定人三名共皆ナ運筆ノ習性ヲ說明シテ同筆ナリト證言シ右ハ被上告人七五郎カ認メタル自筆ナルコトヲ原院ニ於テ立證セラレタルナリ然ルニ原判文第二項ノ末段ニ(遺產相續證明書ハ前文說明ノ如ク明治二十九年十一月五日以後ニ成立スヘキノ理由ナキモノナレハ其年月日モ七五郎ノ自筆ト認メ難シ從テ鑑定人高橋基佐澤廣肝ノ鑑定モ亦

之ヲ信用シ難キヲ以テ云々ト判セラレタルハ實ニ不法ナリ何トナレハ所謂前段說明ト云ハルル該證明書カ明治二十九年十一月二十日頃又ハ其後ニ代書調印シタリトノ各證人ノ證言ヲ排斥スル理由ヲ判示セラレタルニテ其他ニ及ハサルハ明カナリ而シテ該證明書ノ明治二十九年十一月五日ナルト十一月二十日ナルトヤ否ノ點ニ毫モ關係ヲ及ホサヽルハ勿論ニシテ良シ之カ十一月五日前ニ成立セリト視ルモ苟クモ被上告人カ該其成立前後ハ被上告人ノ自筆ナル證明ノ事項ヲ認メテ之ニ明治二十九年十一月ト自ラ筆記シタルノ事蹟アルヤ否カ主要ノ點ナレハ其成立ノ前後ハ敢テ問フヘキ必要ナク又何等ノ影響モアラサルナリ故ニ原院カ果シテ七五郎ノ自筆ト認メ難シト認定セラルニハ他相當ノ理由ヲ附セサル可カラス然ルニ原院ハ無關係ノ理由ヲ附會シ來テ自筆ト認メ難シト判セラレタルハ恰モ理由ヲ附セサルノ不法アルモノト言フヘキナリ又特別ノ知能ヲ有スル鑑定人カ理由ヲ付シテ同筆ナリト鑑定シタルニ之ヲ排斥セラレンニハ宜シク其同筆ナラサル理由ヲ說明シテ判定ヲ與ヘサルヘカラス然ルニ原院ハ單ニ(信用シ難シ)ノ一言ヲ以テセラル是レ亦理由ヲ附セサルノ不法裁判ナリト

外國婚姻令集

第二十三號目次

○英國婚姻條例(承前)

英蘭土ノ婚姻式ニ關スル諸法律改正條例……九九

（二頁數）

スヘキ利益ハ妻ニ於テ自由ニ之ヲ處分スルコトヲ得然レトモ其處分ニ付テハ其處分證書ニ夫ノ同意ヲ要ス又婦人用具(パラフエルナリヤ)即チ寢臺化粧具粧飾具ハ夫ニ於テ自ラ之ヲ處分セスシテ死亡シタルトキハ夫ノ遺產管理人ノ手ニ移ラスシテ直ニ妻ノ財產トナルナリ又夫カ相當ノ理由(ナクシ)ナクシテ妻ヲ遺棄シタルトキハ妻ハ治安判事ニ申請シテ同判事ヨリ妻自ラ正當ノ勤勞ヲ以テ取得シタル金錢其他ノ動產ハ妻ノ專有物タルヘキ旨命令ヲ受クルコトヲ得又夫ハ其生存中妻ヲ養フヘキ義務ヲ有シ之ニ位地相應ノ必要品ヲ與ヘサル可ラス若シ夫ニシテ此義務ヲ盡クササルトキハ妻ハ自ラ必要品ヲ購買シ其費用ヲ夫ニ負擔セシムル權利ヲ有ス此點ハ更ニ下文ニ詳說セン

丙　妻ト第三者トノ契約其他ノ取引ニ關スル部

夫婦關係ハ法律上兩面ヲ有シ一面ニ於テハ夫婦異體別人主義ヲ適用シ他面ニ於テハ別人主義ヲ適用スルコトハ既ニ前文ニ之ヲ論シタリ而シテ其夫婦異體適用シ他ノ部面ニ於テハ單獨人主義ヲ適用ス前項(乙)妻ノ財產ニ關スル部ハ卽チ

戸籍法令大全

夫婦異體別人主義ヲ適用スル方面中ノ有夫婦人保護主義ヲ適用スル部面ニシテ妻ハ夫ノ庇護ヲ受クルモノトスルトノ主義ニ依テ處事スル部ナリ然ルニ今本項(丙)妻ト第三者トノ契約其他ノ取引ニ關スル部ニ至リテハ右有夫婦人庇護主義ヲ適用スル部ト婦人單獨人主義ヲ適用スル部トノ二者ニ分カル夫レ單獨人主義トハ有夫婦人ヲ宛モ夫ヲ有セサル婦人ノ如クニ看做シ未婚婦人若ハ寡婦ト同樣ニ之ヲ待遇スル場合ヲ謂フ其場合ハ左ノ如シ

一　妻カ他人ノ權利ニ依テ他人ノ財産ヲ所持スル場合卽チ妻カ第三者ノ遺産管理人タル場合ニハ妻ハ此一點ニ付テハ夫ノ保護ヲ受ケス夫ト何等ノ關係ナク全ク獨立人トシテ行動スルノ權利アリ

二　夫カ破産宣告ヲ受ケタル時妻ハ夫ニ關係ナク自ラ責任ヲ負ヒテ契約其他ノ事ヲ爲スヘキ權利アリ隨テ夫ニ關係ナク第三者ニ對シテ訴訟ヲ提起シ第三者ヨリモ自己ニ對シテ訴訟ヲ提起セラルルコトヲ得且己レモ亦破産人トナルコトヲ得ヘシ

三　倫敦市ニ於テハ妻ハ夫ノ干渉ヲ受ケス自己ノ計算ヲ以テ市内ニテ商業ヲ爲

第二十三號目次

一 沖繩縣間切島規程……ほ頁數一六七
一 同 吏員 規程……一七〇

ルモノヲ除ク外內務大臣ノ許可ヲ經沖繩縣知事之ヲ定ム

第五條　間切島ハ其ノ必要ナル費用及法律命令又ハ慣例ニ依リ間切島ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務アリ

前項ノ費用ハ間切島稅其ノ他間切島ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第六條　從來賦課シタル間切島公費ハ間切島稅夫役現品トシテ之ヲ存ス

間切島稅ヲ新設シ若ハ廢止變更セムトスルトキハ間切島長ハ間切島會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第七條　間切島稅夫役現品ノ賦課徵收ニ關シテハ從來ノ例ニ依ル

前項ノ賦課徵收方法ヲ變更シ若ハ新ニ賦課徵收ノ方法ヲ設ケ若ハ變更スルトキハ間切島長ハ間切島會ノ決議ヲ經沖繩縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

間切島稅夫役現品ノ賦課徵收ニ關シ特ニ規定ヲ要スルモノアルトキハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第八條　間切島稅夫役現品ニ代フル金圓其ノ他間切島ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ間切島長ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徴收金ニ追徴還附期滿免除及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル例ニ依ル

第九條　間切島ハ負債ヲ超スコトヲ得

間切島ノ負債ニ關スル事項ハ內務大臣ノ許可ヲ經沖繩縣知事之ヲ定ム

第十條　間切島ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

間切島歲入出豫算及決算ニ關スル事項ハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第十一條　間切島內一部ノ財產又ハ營造物ニ關シテハ法律命令中別段ノ規定アルモノヲ除ク外間切島有財產又ハ間切島ノ營造物ニ關スル例ニ依リ間切島長之ヲ管理スヘシ但シ其ノ會計ハ之ヲ分別スヘシ

第十二條　間切島內一部ノ財產又ハ營造物ニ關スル事務ノ爲當該郡長島司ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ經特ニ村會ヲ設クルコトヲ得

第十三條　村會ノ組織選擧職務權限處務規定及其ノ監督等ニ關スル事項ニ付テハ沖繩縣知事ニ於テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク外間切島會ニ關スル規定ヲ準用ス

第十四條　數間切島ノ事務ヲ共同處辨スル爲間切島組合ヲ設クルコトヲ得

間切島組合ニ關スル事項ハ內務大臣ノ許可ヲ經沖繩縣知事之ヲ定ム

第十五條　間切島行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ沖繩縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

宮古郡八重山郡ニ於ケル間切行政ハ第一次ニ於テ沖繩縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第十六條　監督官廳ハ間切島行政ヲ監督スル爲必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第十七條　間切島長又ハ間切島收入役故障アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ沖繩縣知事ハ間切島ノ費用ヲ以テ官吏ヲ派遣シ間切島長又ハ間切島收入役ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得

第十八條　此ノ勅令ニ規定スルモノヲ除ク外間切島ノ行政ニ關シ必要ナル事項ハ內務大臣ノ許可ヲ經沖繩縣知事別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十九條　此ノ勅令ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

附　則

第二十條　此ノ勅令ハ明治三十二年一月一日ヨリ施行ス

●沖繩縣間切島吏員規程（明治三十年三月勅令第五十六號）

朕沖繩縣間切島吏員規程ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣間切島吏員規程

第一章　間切吏員ノ組織及任免

第一條　間切ニ間切長一名書記若干名ヲ置ク書記ノ定員ハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第二條　間切ニ收入役一名ヲ置ク但シ場合ニ依リ沖繩縣知事ハ書記ヲシテ收入役ヲ兼務セシムルコトヲ得

郡長島司ハ收入役ヲシテ身元保證トシテ金圓若クハ物件ヲ間切ニ差出サシムルコトヲ得

第三條　間切內ノ村ニ村頭一名ヲ置ク但シ沖繩縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ數村ニ一名ノ村頭ヲ置キ又ハ村ニ村頭ヲ置カサルコトヲ得

第四條　間切長收入役書記村頭ハ沖繩縣知事之ヲ任免ス

第五條　郡長島司ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ間切又ハ間切內ノ村ニ必要ノ附屬員ヲ置クコトヲ得

附屬員ハ郡長島司之ヲ任免ス

第六條　郡長島司ニ於テ必要ト認ムルトキハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ間切ニ臨時若クハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ郡長島司之ヲ任免ス

第七條　沖繩縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ數間切ニ一名ノ間切長及其ノ他ノ間切吏員ヲ置クコトヲ得

第二章　間切吏員ノ職務權限

第八條　間切長ハ上司ノ指揮監督ヲ承ケ間切ヲ統轄シ法律命令若クハ慣例ニ依リ其ノ行政事務ヲ擔任ス

間切長ノ擔任スル事務ノ概目ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

第九條　書記ハ間切長ノ命令ヲ承ケ庶務ニ從事ス

間切長故障アルトキハ上席書記其ノ職務ヲ代理ス

間切長ハ書記ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十條　收入役ハ間切ノ收入ヲ受領シ其ノ費用ノ支拂ヲ爲シ其ノ他會計事務ヲ掌ル

第十一條　村頭ハ間切長ノ命令ヲ承ケ村内ニ關スル間切長ノ事務ヲ補助執行ス

間切長ハ郡長ノ許可ヲ得テ村内ニ關スル其ノ事務ノ一部ヲ村頭ニ委任スルコトヲ得

第十二條　附屬員ハ間切長又ハ村頭ニ屬シ其ノ命令ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十三條　委員ハ間切長ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

委員ノ職務權限ニ關スル細則ハ郡長島司之ヲ定ム

第十四條　間切吏員ノ處務規程ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ郡長島司之ヲ定ム

第十五條　間切吏員ニハ官吏服務紀律及官吏懲戒令ヲ準用ス

間切長收入役書記村頭ノ懲戒處分ハ沖繩縣知事之ヲ行ヒ其ノ他ノ吏員ノ懲戒處分ハ郡長島司之ヲ行フ

◉改正刑法ニ付キ新著書紹介ノ廣告

司法大臣　松田正久閣下題字
司法次官（法學博士）　河村讓三郎閣下題辭
大審院部長（法學博士）　富谷鉎太郎閣下序
内務省警保局長　古賀廉造閣下序
司法省民刑局長　平沼騏一郎閣下序
司法省參事官　谷田三郎先生校閲
日本法令審査會主事　宍戸深藏著

新刑法實用

（四版）

菊版四百八頁
總クロース綴上製
定價　金壹圓五拾錢
送費金拾錢三部以上送費不要

本書ハ逐條講義トシ各頁ヲ三段ニ區別シ上欄ニ舊刑法ヲ掲ケ、中欄ニ新刑法、下欄ニ改正ノ理由ト説明トヲ詳述ス

本書ハ未ダ江湖ニ顯ハレザル材料ニ依リテ編纂著述シタルモノナリ

申込所　東京市神田區今川小路三丁目六番地　明倫館

川和第三八二號

戸籍叢書

第貳拾四號

明治四十一年十一月十五日發行（毎月一回十五日）

戸籍叢書第二十三號　（毎月一回十五日發行）

最近に共溫社で專賣特許と（第一二五一〇號）實用新案と（第四九七二號）を得ました

天下無比の裏毛靴下と裏毛足袋とが出來ました

一手發賣元

◎嶄新◎

此の靴下と足袋とが特許を得たのは次ぎの特色があるからです

（一）裏には一面に毛を織り出して居ります
（二）寒中でも足が温かです
（三）持ちが三倍です
（四）直段が安いです
（五）色が變はりません
（六）鼻緒、靴ずれが出來ません
（七）長く坐りましても足が痛みません
（八）色は黒、紺、白、ヲリーブ、エビチヤ種々あります
（九）大人なれば足の大小にかまはず履けます
（十）何度でも洗ひがきゝます

此れほど德用のものが次ぎの賣價です

裏毛靴下　毛製　一足　金五十錢　綿製　一足　金二十五錢

裏毛足袋　毛製　一足　金三十錢　綿製　一足　金二十錢

◎足袋は御得意樣から十德足袋と云ふ名前を頂戴致しました
△取次販賣を御望みの向は至急申込ありたし

東京市小石川區大和町八番地

國益社

○會員諸君へ公告

印刷ノ校正刷送付ノ途中原稿紛失セル爲メ本誌非常ニ發行延引シタル段御承知願上候

明治四十一年十一月

戸籍學會

戸籍法實用

第二十四號目次

第八十條(承前)……い頁數 三六七
第五　裁判上ノ認知及ヒ其取消……三六七
第六　届書ノ送付……三六八
第七　登記及ヒ事項取扱方……三六九
第八十一條……三七九
第八十二條……三八三
第八十三條……三八五
第八十四條……三八七

第五　裁判上ノ認知及ヒ其取消

一裁判確定ノ結果私生子ハ某男ノ子ト認メラレタリ此場合ハ某男ヨリ判決謄本添付認知届書ヲ戸籍吏ニ差出スヘシ

私生子認知届書ニ添付スル判決書謄本ハ正本ニ因リ自ラ謄寫シタルモノニテハ無效ナリ裁判所ノ認證アル謄本ヲ添付スヘキモノトス

二私生子ヲ認知スヘキコトヲ命シタル判決確定シタルモ認知者ヨリ届出ヲ爲ササルトキハ其判決執行力アル正本ヲ原告ヨリ提出セシメ之レニ因リ身分登記ヲ爲スヘシ

私生子ヲ認知スヘキコトヲ命シタル判決確定シタルトキハ其判決ノ執行力アル正本ヲ原告ヨリ提出セシメ之レニ因リ身分登記ヲ爲スヘク判決ノ主文ニ私生子ヲ認知スヘシトアルハ認知ノ届出ヲ爲スヘシトノ趣旨ニ解スルヲ相當トス(民法第八百三十九條參看)

三私生子認知取消ノ裁判確定ノ上其謄本ヲ添ヘ第百六十九條ニ依リ身分登記取消ノ申請ヲ爲シタル者ナレハ第二十四條ニ基キ該登記ヲ取消シ隨テ

乙者戸籍庶子ノ欄ニ其事由ヲ記載シ全部抹消シ又既ニ認知届ニ依リ除籍ヲナシタル甲者私生子某ノ戸籍事項欄ニ其事由ヲ記載シ朱線ヲ交叉シア
ル分ヲ復活セシムヘキモノトス

第六　届書ノ送附

一管轄内ノモノ他管轄ナルモノノ私生子ヲ認知シ戸主ノ同意ヲ得テ私生子
認知ヲナスモノアル時ハ身分登記簿ハ附錄第一號ノ三ニ戸籍簿ハ記載例
第九ノ書式ニ仍リ夫夫記入ヲ了シ庶子トシテ直ニ入籍セシメ届書ノ副本
及入籍通知書ヲ他ノ戸籍吏ニ送付スルモノトス

非本籍地戸籍吏ハ届出人ヨリ戸籍法第五十三條第二項後段ノ規定ニ準シ
届書正本一通副本二通ヲ差出サシメ第三十四條ニ準シ身分登記ヲ爲シタ
ル後届書ノ正本ヲ本籍地戸籍吏ニ送付シ其副本ノ一通ヲ被認知者ノ本籍
地戸籍吏ニ送附スヘシ

二甲村甲家ノ戸主乙村乙家ノ家族タル私生子ヲ認知シ乙村ニ認知届ヲ出シ
乙村戸籍吏ハ登記ヲナシタルモ届書ノ一通ヲ甲村ニ送附セサリシヲ以テ
甲村甲家ニ私生子ノ入籍ナク程經テ右認知者ハ更ニ甲村ニ認知届ヲ出シ
タルニ甲村戸籍吏ハ之レヲ登記シ届書ノ一通ヲ乙村戸籍吏ニ送附シタル
ニ乙村ニ於テハ前述ノ如ク已ニ認知ノ登記アリ此場合ニ於テハ取扱方ハ
乙村戸籍吏ハ甲村戸籍吏ヨリ送リタル届出ノ登記ヲ爲サス理由ヲ附シテ
管轄區裁判所ヘ送附シ又甲村ノ登記ニ付テハ身分登記變更許可ヲ得テ認
知ノ年月日ヲ乙村登記ト同一ニシ可然シ但シ届書ハ乙村戸籍役場ニ之ヲ
保存スヘク區裁判所ヘハ送付スルニ及ハス

第七　登記及ヒ戸籍取扱方

(一)一般

一認知者カ認知者ノ家ニ入ル場合ナルト否トヲ問ハス認知ノ身分登記ハ認
知者ノ本籍地及ヒ被認知者ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス

二認知者ノ本籍地戸籍吏ハ取扱手續附錄記載例第一號ノ三第三號ノ例ニ依
リ身分登記ヲ爲スヘク戸籍ニハ何等ノ記載ヲ爲スニ及ハス
被認知者ノ戸籍ニ認知ノ事項ヲ記載スヘク認知者ノ戸籍ニハ何等ノ記載

ヲ爲スニ及ハス

三養親ハ養女ノ私生子ヲ認知シ得ルヲ以テ戸籍吏ハ其認知届ヲ受理スヘク戸籍吏ニ於テ養親ト庶子トノ續柄ハ庶子男、養女ト庶子トノ續柄ハ養女某庶子男ト記載スヘシ

(二)母ノ籍ニ入リタル私生子ノ認知

一母ノ籍ニ入リタル私生子ヲ父カ認知スルニ當リ其家ニ入ルコトヲ得サルトキハ母籍ニアル儘認知届ヲナサシメ戸籍中被認知者ノ事項欄ニハ明治何年何月何日父何某何郡何町何番地族稱甲野甲郎認知届出同日受附ト記載スヘシ

私生子カ認知前尚ホ母ノ實家ノ籍ニアリタル場合ニ於テハ附錄第三號戸籍記載例九又ハ十ニ依ルヘク若シ既ニ父ノ籍ニ入リタル場合ニ於テハ同一ノ例ニヨリ入籍ノ文字ヲ省クヘシ身分登記ハ附錄第一號ノ三ノ例ニ做ヒ別ニ嫡出子ノ身分取得ノ事由ヲ記載スルニ及ハス

二取扱手續附錄第二號ノ三ハ被認知者ノ母ノ籍ニアル場合ノ記載例ナルニ因リ母ト本籍ヲ異ニスル場合ニ於テハ同記載例中右母云云トアル前ニ右何縣何市何町何番地戸主平民(士族某弟(甥姪)ト記載スルヲ相當トス

(二)母親他家ヘ嫁シタル後其私生子ヲ認知スル場合

第　號

駿東郡沼津町七十七番地戸主
平民農仁藤愛吉

庶子男　貞　吉　年月日生

右駿東郡沼津町城内九番地戸主平民無職業
高畠一郎甥
右母同郡原町六十五番地戸主平民農
井上六三郎妻無職業ロク

認知者　仁藤愛吉　年月日生

右私生子認知明治三十二年八月五日届出同日受附㊞

△戸籍記載例

明治三十二年八月五日駿東郡沼津町城内九番地
戸主平民高畠一郎甥
妻私生子認知届出同日受附入籍㊞

(四)私生子カ母ノ家ニ在テ夫ヲ迎ヘシ後認知スル場合

第　號

駿東郡沼津町本八百七番地戸主
平民鳶職大山兼吉
母フテ養子又吉ノ妻ナルニ因リ父ノ家ニ入ラス　庶子女　フミ　何年何月何日生
右母駿郡沼津町三枚橋七十六番地戸主
平民洗濯職犬飼フテ
認知者
大山兼吉

右私生子認知明治三十二年九月七日届出同日受附㊞

△戸籍記載例

明治三十二年九月七日右父駿東郡沼津町本八百七番地
戸主平民大山兼吉認知届出同日受附㊞

(五)妻子ヲ有スル私生子ヲ認知スル場合

第　號

駿東郡沼津町上土七十九番地
戸主平民左官職高木秀吉
庶子男　龍三　年月日生
右母駿東郡沼津町上土五百番地戸主平民無職業
村田新吉妹縫落職てる　父關源吉　母ひさ　長男　生年月日

夫龍三ニ隨ヒ其家ニ入ル　妻　さく　生年月

又龍三ニ隨ヒ其家ニ入ル　父龍三　母さく　長男　幸太郎　年月日生

認知者　高木秀吉　年月日生

右私生子認知明治三十二年九月五日届出同日受附㊞

△妻ノ戸籍記載方

明治三十二年九月五日夫龍三入家シタルニ因リ入籍

子ノ戸籍記載方ハ妻ノ記載方ニ準スヘシ

(六)婚姻中私生子ヲ認知スル場合

第　號

駿東郡沼津町城内五十八番地戸主平民

無職業山村良三　長(二)男　清　三

何年何月何日生

右駿東郡沼津町本千七百番地戸主

平民青物商青山勝藏孫

右母ゆり

認知者　山村良三

何年何月何日生

右私生子認知明治何年何月何日届出同日受附㊞

△戸籍事項欄記載方

明治何年何月何日何郡何町何村何番地戸主平民

青山勝藏孫私生子認知届出同日受附入籍㊞

二婚姻届出ヲナシタル後妻ノ私生子ヲ認知シタル届出ニヨリ父ノ籍ニ入籍シタルトキハ額書欄内ハ民法第八百三十六條二項ニヨリ長男(女)ト記載スヘシ

嫡出子タル身分ヲ取得シタルモノノ届出事項ヲ戸籍記載例第八ノ例ニ依リ戸籍ニ記載シタル上ハ續柄ノ庶子又ハ私生子ト記載アルモノハ何男(女)ト訂正スヘキ義ナリ但シ認印ヲナスニ及ハス

三 出生届洩ノ私生子丙ニ付婚姻中妻ヨリ出生届ヲ爲シ夫ノ家ニ入籍シタルトキハ私生子戸籍ノ額書ハ妻ノ私生子ト記載シ家族トノ續柄ニ妻某ノ私生子ト記載スヘシ又私生子ノ父タル夫カ認知ヲ爲シタルトキハ其届書ニ依リテ取扱手續附錄第一號ノ三ノ例ニ做ヒテ認知ノ登記ヲ爲シ被認知者ノ頭書ニ長(二)男ト記載シ別ニ嫡出子ノ身分取得ノ事由ヲ記載スルニ及ハス私生子ノ戸籍事項欄ニハ明治何年何月何日父某認知届出同日受附ト記載シ且戸籍ノ記載ハ相續ノ順位ニ拘ハラス年齡ニ依ルヘキモノニ付丙ノ額書ニ妻ノ私生子トアルヲ長男ト改メ丁ノ額書ヲ二男ト改ムヘシ

四 一家戸籍中ニ在ル妻ノ私生子ヲ夫ニ於テ認知シタル場合ノ戸籍記載方ハ取扱手續附錄第三號ノ九ノ振合ニ依リ記載スヘシ但シ入籍ノ文字ヲ除クヘキモノトス

五 婚姻中妻ノ實家ニ在ル私生子ヲ認知シテ入籍シタル場合ノ戸籍事項欄ノ記載方ハ明治何年何月何日何郡何村何番地戸主(族稱)甲野甲郎(續柄)當時某妻某(母ノ名)私生子認知届出云云ト記載スヘシ

第八十一條　民法第八百三十一條第一項ノ規定ニ依リテ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ認知者ハ母ノ氏名職業及ヒ本籍地ヲ具シテ其胎内ニ在ル子ヲ認知スル旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

本條ハ胎兒認知ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

(一)届出

一胎兒認知ノ届出ハ第四十二條ニ依リ認知者ノ本籍地若クハ所在地ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ所在地ニ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

二私生子ニシテ父之ヲ認知シ直ニ父ノ本籍ヘ入籍シ得ルモノハ胎兒ニシテ出生後ハ假令ヒ十日以内タリト雖モ一旦民法第七百三十三條ニヨリ母ノ家ニ入ルカ又ハ一家ヲ創立シタル後又之ヲ認知シタル場合ニ父ノ籍ニ入ルコトヲ得ル義ニシテ出生届出ニ因リ入ルコトヲ得ス

胎兒ヲ認知スルコトヲ得ル規定アリト雖モ出生子ヲ其出生届以前ニ於テ認知スルコトヲ得ル規定ナキニヨリ母又ハ第七十一條ノ届出義務者ヨリ私生子出生届ヲナシタル後ニ非ラサレハ父ハ其子ヲ認知シテ庶子トナスコトヲ得ス私生子棄兒ノ場合ニ於テ棄兒發見ノ届出アリタルトキハ出生届アリタルト同一ニ看做スコトヲ得ルニ因リ父ハ直ニ其子ヲ認知スルコトヲ得

三胎兒認知ニ付テハ認知者ノ本籍地ニ於テ其身分登記ヲ爲ス外何等ノ手續ヲ爲スニ及ハサルニ付届書ハ一通ヲ差出スヲ以テ足ル

(二)届書ノ送付

甲戸籍吏ノ管轄内ニ本籍ヲ有スル男カ乙戸籍吏ノ管轄内ニ本籍ヲ有スル女ト私通シ私生子ヲ擧ケ甲カ甲戸籍吏ニ胎兒認知ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ甲戸籍吏ハ其副本ハ乙戸籍吏ニハ送附スルニハ及ハス

甲戸籍吏管轄内ノ女ト私通シ其胎兒認知ヲ甲戸籍吏ヘ届出タル時其届書ハ乙戸籍吏ヘ回送スルニ及ハス又某女ニ配偶者アリヤ否ヤ判然セサルモ調査スルノ要ナシ

(三)登記及ヒ戸籍取扱方

胎兒認知ニ付テハ認知者ノ本籍地ニ於テ認知ノ身分登記ヲナスノ外何等ノ手續ヲナスニ及ハス

民法第八百三十一條第一項戸籍法第八十一條ノ規定ニ依リ胎兒認知ヲ届出タルトキ戸籍吏ハ身分登記ヲ爲スノミニテ父母ノ戸籍ニハ何等ノ記載モ要セス

出生子ノ戸籍事項欄ニ胎兒認知ノ事項ヲ記載スヘカラス但出生子ノ母ノ本籍地氏名等ハ出生ノ身分登記ニ依リ之ヲ知ルコトヲ得ヘク母ノ氏名ハ出生子ノ戸籍ニ記載アルヘキ筈ナリ

第八十二條　民法第八百三十條及ヒ第八百三十一條ノ規定ニ依リ子、母又ハ直系卑屬ノ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ承諾ノ證書ヲ添ヘ又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ承諾ノ旨ヲ附記之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

本條ハ成年ノ私生子及ヒ死亡シタル子ノ認知ヲ規定シタルモノナリ

一民法第八百三十一條第二項ニヨリ死亡シタル子ヲ認知シタルトキハ其直系卑屬ハ認知者祖父ノ家ニ入ル

二死亡シタル子ノ認知ニ付テハ認知者ノ本籍地及被認知者ノ直系卑屬ノ本籍地ニ於テ身分登記ヲナスヘキモノナルニ因リ認知者ノ本籍地ノ戸籍吏ハ身分登記ヲナシ其直系卑屬ノ本籍地ノ戸籍吏ニ届書ノ副本ヲ送付シ且其直系卑屬ノ入籍手續ヲナシ同時ニ其旨ヲ通知スヘク直系卑屬ノ本籍地

ノ戸籍吏ハ右ノ送附及通知ニ因リ身分登記及除籍ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

三　死亡シタル私生子認知ノ場合

△登記例（前後ヲ略ス）

父亡青柳富吉
母タミ　長男　亡父認知セラレタルニ付祖父ノ家ニ入ル　五郎
明治何年何月何日生

△戸籍記載例

明治三十三年六月二十日駿東郡沼津町城内六番地戸主平民青柳正三姉ハル私生子亡富吉認知届出同日受附入籍㊞

被認知者ノ直系卑屬ノ戸籍事項欄ニ取扱手續附錄第三號戸籍記載例第九第十ノ例ニ依リ甲野甲郎私生子ノ下ニ「亡某」丙野丙郎ノ下ニ「私生子亡某」ト加ヘ記載スヘキモノトス

第八十三條　遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ハ遺言カ效力ヲ生シタル日ヨリ十日内ニ其認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添ヘ前三條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

遺言ニ依ル認知ノ届書ニハ認知者ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

本條ハ遺言ニ依ル認知ヲ規定シタルモノナリ此場合ニ於ケル登記例ハ左ノ如シ

△登記例

駿東郡沼津町三枚橋二十番地
戸主平民大工職小西節藏父亡恭三
庶子女　くら

右母駿東郡沼津町本十五番地戸主平民
菓子商高橋トラ
明治何年何月何日死亡認知者　小西恭三
明治三十二年何月何日生
駿東郡沼津町上十一番地戸主平民農
遺言執行者
長田平助
明治何年何月何日生

右私生子認知明治何年何月何日届出同日受附㊞

△戸籍事項欄記載方

明治参拾貳年七月五日父亡駿東郡沼津町三枚橋二十番地戸主平民小西恭三認知届出同日受附除籍㊞

届出人

第八十四條　胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一ケ月内ニ認知ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス但遺言執行者カ認知ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ヨリ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

本條ハ認知セラレタル胎兒カ死體ニテ分娩シタル場合ニ於ケル認知登記ノ取消方ヲ規定シタルモノニシテ別ニ說明スヘキ事項ナシ

舊慣例集

第二十四號目次（二十三年分）

一　離婚シタル妻ノ緣組……ろ頁數三三九
二　亡妻ノ妹トノ婚姻……三三九
三　亡兄ノ妻トノ婚姻……三四〇
四　單身附籍者ノ遺留財產ノ處分方……三四〇
五　戶主失踪中ノ廢嫡宗族換……三四一
六　離婚シタル婦ノ緣組……三四二
七　妻妾ニ非サル姉女ノ子ノ所屬……三四三
八　甥ノ相續權……三四三
九　附籍者ノ取扱方……三四三

東京府書記官問合（明治二十一年十二月二十八日）

妾ニ離別シタル妾ヲ更ニ養女ニ貰受ケントスル者アリ右ハ道義上少シク嫌フ所ナキニアラサルモ抑モ妾ナル名義ハ明治十五年刑法施行以後法律上之ヲ認メサルヲ以テ其等親ノ如キモ亦之レト共ニ消滅シタルモノナレハ敢テ親屬上ノ關係アルモノニアラス然ラハ一旦離別シテ生家へ復籍シタル上ハ更ニ之ヲ養女トナスモ差支無之哉

民事局長回答（明治二十二年一月十一日）

離別ノ妾ヲ更ニ養女ト爲スハ風儀ヲ紊ルノ嫌ヒアレハ難差許儀ト思考致候

長野縣知事伺（明治二十一年十二月二十八日）

下伊那郡伊豆木村坂卷嘉七ヨリ亡妻妹ト結婚願ノ儀ニ付別紙出願ノ處事情不得止儀ニ付可然御詮議相成候樣致度此段相伺候也（別紙略）

司法大臣指令（明治二十二年一月十一日）

長野縣平民坂卷嘉七亡妻ノ妹ト結婚願ノ件ハ事情止ムヲ得サルモノニ付聽屆ケ

苦カラス

長野縣知事伺（明治二十一年十二月二十八日）

管下上水內郡倉井村三ツ井總七ヨリ亡兄ノ遺妻ト結婚ノ儀ニ付別紙出願ノ處右ハ不都合有之候得共已ニ決行ノ今日引直シ難キ場合モ有之事情不得止ニ付可然御詮議相成候樣致度別紙相添此段相伺候也（別紙略）

司法大臣指令（明治三十二年一月七日）

平民三井總七ヨリ三男榮次郎亡兄ノ遺妻ト結婚ノ件ハ事情止ヲ得サルモノニ付遺妻一旦離婚ノ上ハ更ニ結婚聽屆苦カラス

甲府治安裁判所判事照會（明治二十二年一月九日）

客年七月本省訓令第十號ノ認可ヲ要スルノ主意ハ畢竟スルニ遺產處分ノ不正ナキヲ期スル爲メナレハ苟モ其物件ノ所有權ヲ移轉スル場合ハ原因ノ如何ニ拘ハラス始審裁判所ノ認可ヲ要スルコト勿論ト被存候果シテ然ラハ單身附籍者死亡

滿六ケ月以內ニ相續人ヲ屆出ス絕家トナリシ者ノ遺產ノミヲ本屬戶主ニ於テ相續スル場合ハ其名相續ニシテ其實賣買讓與ニ依リ所有權ノ移轉スルト異ナラサレハ該訓令ニ從ヒ始審裁判所ノ認可ヲ要スル儀ト可心得哉

民事局長回答（明治三十二年一月十七日）

單身附籍者遺留財產ノ件ハ附籍者ノ遺留財產ナリト雖モ通常單身戶主遺留財產ニ異ナラサルヲ以テ直ニ本屬戶主ニ於テ相續スヘキモノニアラス通常遺留財產ヲ以テ處分スヘキモノナレハ滿五ケ年所轄戶長ニ於テ保管シ然ル後官沒スヘキモノナレトモ別ニ遺言等アリテ其證據明確ナルニ於テハ讓與ノ例ニ依リ處分スヘキモノト思考致候

愛知縣知事伺（明治二十一年十二月二十七日）

本縣名古屋西脇町平民杉浦長次郎ナル者同區南園町平民佐藤理三郎ヨリ妻ヲ娶リ長男仲次郎ヲ擧ケタル後明治九年七月逃亡生計ノ途無キヲ以テ妻竝長男ヲ理三郎方ヘ引取リ養育セシニ同十年七月長次郎復歸貧困妻子ヲ養育スル能ハサルヨ

リ親戚協議斷然妻ヲ離縁シ長男共ニ理三郎方ヘ引取ヘキ筈別紙約定ヲナシ其後長次郎再逃亡ニ付同年八月妻長男ヲ携ヘ生家ヘ復籍（長男復籍ノ處分ヲ爲セシハ誤謬）同十四年三月ニ至リ長男更ニ理三郎方ヘ附籍トナセシカ元來右長男ハ理三郎ヘ貰受タル約定ニシテ附籍ノ趣旨ニ無之旨ヲ以テ廢嫡家族換ノ儀今般双方親戚連署願出候得共約定書ニ依レハ長男ノ養育ヲ依囑シタルニ過キサル者ニ被相考廢嫡差遣ヘキ等ノ文意相見エサルノミナラス戸主失踪中孤獨ノ男子他ヘ養子ノ儀ハ不相成旨客年十月本縣伺ヘ御指令ノ趣モ有之候ニ付勿論聞屆難キ儀ト存候得共本件ハ既往ノ事實ニ有之旁約定書寫相添一應相伺候（別紙略）

司法大臣指令（明治二十二年一月二十一日）

戸主失踪中獨子廢嫡家族換ノ儀ハ不相成儀ト心得可シ

群馬縣知事伺（明治二十二年一月十六日）

一、該ニ戸主アリ其長男ノ婦子女アリヲ離縁シ一旦其婦ノ生家ニ復籍シタル後更ニ該婦ヲ戸主ノ養女ニ入籍セシメ不苦哉

二、前項果シテ差支ナキトキハ該女ト元夫トノ續柄ハ養兄妹ト稱シ得ヘキ哉且該女カ先キニ擧ケタル子女ヨリハ母ト稱シ可然哉

司法大臣指令（明治二十二年一月二十四日）

第一項　長男ノ婦一旦離縁復籍ノ上タリトモ前夫現存スル場合ハ養女ト爲スコトヲ得ス

第二項　前項ニテ了解スヘシ

大分縣知事伺（明治二十一年十月二十三日）

第一項　妻妾ニ非ラサル婦女ニシテ分娩スル兒子男子已レノ子ト認メ婦女住所ノ戸長ニ請テ免許ヲ得タル者双方情願ニ依リ其儘婦女ノ籍ニ差置ク場合戸籍上其事項欄内ヘハ縣郡村族籍氏名庶子額書ハ戸主ノ續柄肩書ハ名私生子ト記載シ可然哉

第二項　甥ヲ以テ家督ヲ繼承セシムル場合ハ籍ノ内外ヲ問ハテ總テ養嗣子トナス可キ義ニ候哉

人事判例集

第三項　家族ニシテ他ニ附籍ノ者ハ本籍ヲ刪除セス附籍主ノ籍末ニ附記シ本籍戸主ノ續柄ヲ上欄ニ記シ寄留者同樣可取扱筈ニ候處附籍主他ヘ送籍ノ場合右附籍人ヲ籍末記載ノ儘送籍狀ニ全寫スルトキハ附籍者ヲモ一同送籍セシモノノ如ク送籍狀右全戸主云云ノ文面ニ對シ不都合ニ被存候ニ付右ハ附籍ノ主送籍狀ニ記載セス別送通知候樣取扱可然哉

內務、司法兩大臣指令ニ（明治二十一年十二月九日）

第一項　私生子ヲ男子己レノ子ト認メ戸長ノ免許ヲ得レハ父庶子ノ稱呼ヲ生シ其父タル者ノ引受ケタルヘキニ付縱令双方ノ情願ト雖其儘婦女ノ籍ニ差置ク ヲ得サルモノトス

第二項　第三項　何ノ通

第二十四號目次

○親族會員ノ選定ニ關スル裁判所ノ職權○緣故者ノ解釋○事實ノ認知ニ對スル抗告ノ許否……（明治三十三年分）は頁數三五三

○明治六年第二十一號布告ノ適用……三五八

○施所前ノ未成年者ノ爲メニスル訴訟提起權……三六四

○親族會員ノ選定ニ關スル裁判所ノ職權緣故者ノ解釋事實ノ認知ニ對スル抗告ノ許否

（明治三十三年(ク)第五拾八號令三十三年三月二十八日第一民事部決定）

抗告人等ハ親族會員選定決定ニ對シ大阪控訴院カ明治三十三年二月十九日與ヘタル決定ニ對シ抗告ヲ爲シタルニ依リ決定スルコト左ノ如シ

決定

本件抗告人ハ是ヲ棄却ス

理由

抗告第一點ハ原院ハ平尾爲次郎廣谷儀兵衞ハ高岡家ニ緣故アルコトヲ推定ス親族會員タル資格ヲ有スルモノノ如ク說明セラレタリ抑モ民法第九百四十五條第一項ハ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中トアリテ一括ノ法文ニアラス親族會ハ親族存在スレハ無論緣故アルモノノ如キハ親族會員タル資格ヲ有スルモノニアラス必ス其親族會ヲ以テ組成セサルヘカラサルヤ炳トシテ明ナリ然レト

モ親族ナキコト判明ナル場合ニ於テハ何人ト雖モ其家ニ緣故アルモノハ親族會員タル資格ヲ有スル法文ナルヤ論ヲ竢タス然ルニ抗告人等ハ幾多ノ親族アルニ拘ハラス緣故アリトテ親族ヲ排シ平尾爲次郎廣谷儀兵衞ヲ親族會員ニ選定セラレタルハ民法第九百四十五條ノ解釋ヲ誤リタル不法ノ決定ナリト云ハサルヲ得スト云フニ在リ然レトモ民法第九百四十五條第一項ニハ親族會員ハ三人以上トシ親族其他本人又其ノ家ニ緣故アル者ノ中ニヨリ裁判所之ヲ選定ストアリ以上ノ如ク法文ハ毫モ親族ト緣故アル者トノ間ニ何等ノ制限ヲ設ケタルコトナキヲ以テ裁判所ハ適當ナリト思量スルニ於テハ親族及ヒ緣故アル者ノ中ニ於テ自由ニ之レカ選定ヲ爲スノ權アルコト明カニシテ抗告論旨ノ如ク親族ノ數三人ニ滿タサル場合ニ限リ緣故アル者ヲ以テ補充スルノ意ニアラサルナリ故ニ大阪控訴院カ他ニ幾多ノ親族アルモ適當ト認メ緣故アル者ヲ親族會員ニ選定スルハ裁判所ノ職權ニ屬スルモノト說明シタルハ適法ナリ

抗告第二點ハ抗告人等ハ平尾爲次郎廣谷儀兵衞等ハ高岡家ニ對シ絕對ニ緣故アルモノニアラスト主張スルモノナリ何ントナレハ今高岡家ニ緣故アルモノトセハ親族人ナル抗告人ニ於テ之ヲ知サル筈ナリ假リニ今數歩ヲ讓リ原院說明ノ如クスルモ平尾市四郎カ高岡福松家ニ緣故アルモノノ如ク說キ來リ從テ無關係ナル平尾爲次郎迄モ緣故アリト推定セラレタルハ失當ナリ何トナレハ緣故アルモノハ親族ノ如ク親等アルモノニアラス直接其家ニ緣故アルモノタル法文上明ニシテ原院ハ先代平尾市四郎カ高岡福松家ニ緣故アリト推定シ乍ラ相續人タル平尾伊兵衞ヲ措キ反テ分家タル平尾爲次郎迄モ緣故アルモノノ如ク論下セラレシハ失當ノ推定ト云ハサルヲ得スト云フニ在リ〇然レトモ民法第九百四十五條ニハ本件又ハ其家ニ緣故アルモノトアリテ緣故ニ就テ毫モ直接關係ノ區別ヲ設ケラレタルモノニアラサルカ故ニ種ノ緣故アル者ハ總テ包含スルモノトス然ルニ以テ大阪控訴院カ平尾市四郎ノ相續人平尾爲次郎ヲ以テ緣故アルモノト論定シタルハ違法ニアラス

抗告第三點ハ申請人高岡ハツハ抗告人等幾多ノ親族アルニモ拘ハラス親族ナキモノノ如ク原裁判所ヲ欺キ高岡家ニ有害無益ニシテ曾テ緣故ナキ平尾爲次郎廣谷儀兵衞ヲ緣故アルモノノ如ク裝ヒ親族會員ニ選定セシメタルモノナレハ無論

決定ノ不當ナル論ヲ「竢タス假リニ原院說明ノ如ク右兩名ヲ高岡家ニ緣故アルモノトシ會員ノ選定ハ裁判所ノ職權ニ屬スルモノトセンカ曩キニ申請人ハ他ニ親族ナキ旨申立裁判所ノ職權ヲ制限シ自由ニ選定スル能ハサラシメタルモノナレハ原院カ虛構ノ申請ニ拘ハラス會員ノ選定ハ裁判所ノ職ニ屬スルトノ說明ハ甚タ不法ナリ何ントナレハ虛構ノ申請タルヤ無效ノモノニシテ裁判所ノ職權ハ之レカ制限セラルヘキモノニ非ラス若シ此制限ニ服セサルヲ得サルモノトセハ裁判所ハ虛構申請人ニ職權ヲ制限セラレタルモノト云ハサルヲ得スト云フニ在リ

然レトモ裁判所ハ申立タル親族又ハ緣故アル者ノミニ制限セラレタルモノニ非ラス其他凡テノ親族及ヒ緣故テルモノノ中ニ於テ自由親族會員ヲ選定スルモノナリ故ニ大阪控訴院カ會員ノ選定ハ裁判所ノ職權ニ屬スト說明シタレハトテ此說明ノ結果トシテ裁判所ノ職權カ虛構ノ申請ニ制限セラルルモノト云フノ理由ナシ故ニ大阪控訴院ノ該說明ハ不法ニアラス

一、抗告第四點ハ本件平尾爲次郎ハ平尾伊兵衞ノ分家ニシテ平尾市四郎ヲ先代ト云フヲ得ス何トナレハ甲第十一號證ニアル如ク由來關係ハ債務者高岡福松債權者東區南久太郎町三丁目九十四番屋敷平尾伊兵衞ハ市四郎ノ相續人ニシテ平尾爲次郎ハ其分家ニ過キス然ルニ一モ依ルヘキ申述ナキニ平尾爲次郎迄ヲ緣故アルモノノ如ク又市四郎ノ相續人ノ如ク推定セラレタルハ失當ト云ハサルヲ得スト云フニ在リ

然レトモ本案ハ非訟事件手續法第百一條第二項ニ基キ抗告シタルモノナルカ故ニ同法第二十四條ノ規定ニ從ヒ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ抗告ヲ爲シ得ヘク事實ノ認定ニ對シテハ抗告ヲ爲シ得ヘカラサルモノトス而シテ本論旨ハ前顯ノ如ク總テ事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルモノナルヲ以テ抗告ノ理由トスヲ得サルモノナリ

抗告第五點ハ申請人高岡ハツハ婦女子ニシテ平尾爲次郎廣谷儀兵衞ニ瞞着セラレ高岡家ノ前ヲ顧ル能力ナキモノナレハ亡夫福松死亡後未タ數月ヲ出テサルニ甲第十二號ノ二證ノ如ク四千五百圓ニ書入得ヘキ價格アル物件ヲ三千七百二十圓ニ大阪控訴院ニ於テ供述賣却シタリ其他高岡家ノ債權ヲ賣却シ右兩名ニ瞞着セラレ高岡家ノ沒落眼前ニアレハ抗告人等親族ニ於テ之カ維持方法

ヲ立テンカ爲メ抗告ニ及ヒタル次第ニシテ原院ハ民事法第九百四十五條ノ緣故ナル文字ニ制限ナキトキ一家ノ利害ニ關スル且正反對ノ位置ニアル右兩名ヲ緣故アリト推定セラレタルハ不正ニシテ右推定ハ親族ナキ場合ニ限ルモノニシテ緣故ノ文字ハ制限ニ及ホスモノニ非ラスト云フニ在リ

然レトモ本論告ノ前段ハ事實ニ屬スルヲ以テ抗告ノ理由ナシ其後段ハ抗告第一點明ニ於テ了解スヘキヲ以テ爰ニ之レカ說明ヲ爲サス

以上說明セシ如ク抗告論旨ハ總テ其理由ナキヲ以テ主文ノ如ク決定ス

○明治六年第二十一號布告ノ適用

（明治三十二年(オ)第百六十一號令三十三年四月十日第一民事部判決）

右當事者間ノ實子認知請求事件ニ付大阪控訴院カ明治三十二年六月八日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ハ本件ハ實子タルコトヲ實父ニ對シ認知センコトヲ求ムル訴訟ニシテ按スルニ民法實施前ハ人事法ノ成文無キヲ以テ單ニ慣例ニ依ルノ外無シ然ルニ我邦ノ習慣タル殊ニ親子ノ情誼ヲ重ンシ子ヨリ父ニ對シ訴訟ヲ爲ス如キ蔑ムヲ得サル場合ニ於テノミ之ヲ許セリ且明治六年第二十一號布告ニ依ルモ私生子ヨリ父ニ對シ認知ヲ求ムルノ權ナキ旨ヲ規定シアリ元來子タルコトノ認知ヲ求ムルノ必要ハ私生子ノ場合ニ於テ生スヘク實子ノ場合ニ於テ其ノ必要無キハ明カナル條理ニシテ舊法ハ其必要アル私生子ノ認知ヲ求ムル訴訟ヲモ之ヲ許ササルヲ以テ觀レハ其必要無キ實子ノ認知ヲ求ムル訴訟ヲ許ササルコトハ慣例ノ外布告ノ上ニ於テモ暗ニ認メタル法則ナリ之ヲ新民法ニ照スモ實子父ニ於テ之ヲ否認スルノ場合ヲ規定シタルモ認知ヲ求ムルノ規定無ク其之アルハ獨リ私生子ノ場合ニ限レリ要スルニ本訴ハ舊慣及法則ニ違背セル不法ノ訴訟ナルニ原院カ之ヲ容レタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在リ

然レトモ一件記錄ニ徵スルニ被上告人竹川清三ハ戸籍面ニ竹川「ツル」ノ私生子ト

シテ登錄シ在リテ上告人ハ清三カ上告人ノ實子タルコトヲ認ムル能ハスト抗辯スルモノナレハ被上告人ニ於テ實子タルコトノ認知ヲ求ムルノ必要アルハ勿論ニシテ其實子タルコトノ認知ヲ求ムル訴訟ヲ許ササル法律慣例條理共ニ存スルモノ無之而シテ明治六年第二十一號布告ハ私生子ノ認知ニ關スル規定ニシテ本件ノ如キ嫡出子タルコトノ認知ヲ求ムル場合ニ適用スヘカラサルモノナレハ旁以テ本論旨ハ其理由ナシ

其第二點ハ實子ト實父トノ關係ハ實父母結婚中ノ出生ナリトノ一事ニ依リ確定スル事實ニシテ父カ子ニ對シ相當ノ任務ヲ盡ササルニ當リテハ其子ノ引取ヲ要求シ若クハ扶養料ノ請求ヲ爲ス可キ權利アルコト當然ナルカ故ニ假リニ認知ヲ求ムル訴權アリトスルモ單ニ認知ヲ求ムルハ父タルノ任務ヲ盡サシムルコトヲ求ムルノ豫備ノ訴訟ニ過キサルヲ以テ訴訟手續上決シテ許ス可キモノニアラス蓋シ實子認知ヲ求ムルハ其名義ノ如何ニ拘ラス一種ノ確認訴訟ナルヲ以テ父タル者ノ義務履行卽チ身體引取リ若クハ扶養料供與ノ請求ト同時ニ之カ請求ヲ爲スニアラサレハ訴ノ性質上獨立シテ之カ提起ヲ爲ス可キモノニアラス本件ハ上告人ニ於テ一旦竹川清三之ヲ引取リ養育シナカラ爾後之ヲ拋棄シテ義務ヲ盡ササルト同時ニ子タルコトヲ非認セルヲ以テ訴訟ヲ提起シタリト云フニ在ルヲ以テ假リニ認知ヲ求ムルハ必要アリトスルニモ其引取ヲ要求スルト同時ニ請求セスシテ單獨ノ訴ヲ提起シ原院カ之ヲ容レタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在リ

然レトモ右第一點ニ說明スル如ク被上告人清二及清三カ戸籍面ニ「ツル」ノ私生子トシテ登錄シ在リテ上告人ハ其實子タルコトヲ認ムル能ハスト抗辯スル以上ハ被上告人ニ於テ實子タルコトノ認知卽チ確認訴訟ヲ提起シ得ヘキハ勿論ニシテ身體引取若クハ扶養供給ノ請求ト同時ニアラサレハ之ヲ提起シ得ヘキモノニアラストノ論旨ハ其理由ナシ

其第三點ハ竹川ツルハ竹川楢三郎ノ妻ナレハツルニ於テ如何ナル名義ヲ問ハス訴訟行爲ヲナスニハ夫ノ許可ヲ要スルハ勿論ナリ故ニ上告人ハツルカ其夫ノ許可ナクシテ本訴ヲ提起シタルハ失當ナリト抗辯シタルニ原院ハ此點ニ付第一審妨訴抗辯ニ關スル確定判決ヲ採用シタレトモ該判決ハ右點ニ判斷ヲ下タスコト之

ナキヲ以テ右ノ判決ニ基キ上告人ノ論旨ヲ排斥シタルハ法則ニ違反セリト云フニ在リ

然レトモ一件記錄ヲ閲スルニ上告人ハ原院ニ於テ清二及ヒ清三ノ代表者ハ竹川楢三郎ニシテ竹川「ツル」ハ其代表資格ナシトノ抗辯ヲ提出セシ事跡ハ之レアルモ上告人陳述ノ如キ「ツル」ハ楢三郎ノ妻ナレハ其夫ノ許可ナクシテ本訴ヲ提起シタリトノ抗辯ヲ提出シタル形跡ノ見ルヘキモノナキノミナラス本訴ハ「ハツ」カ清三ノ代表者トシテ之ヲ提起シタル場合ニ係ルモノナレハ其夫ノ許可ヲ要スヘキニアラス故ニ本論旨モ亦其ノ理由ナシ

其第四點ハ原院第一審主文ニ揭ケアル「被告ハ原告ノ私生子竹川清三カ被告ノ實子タルコトヲ確知スヘシ」トノ判斷ヲ維持シ控訴棄却ヲ言渡シタレトモ其判決理由ニハ「以上說明ノ如ク被控訴人ハ控訴人ノ嫡出子ニシテ私生子ニアラサル事實ノ明瞭ナル已上ハ云々」トアリテ其主文ノ判斷ト相副ハス卽チ原院ハ其判決主文ヲ維持スルニ足ル理由ノ說明ヲ缺キタル裁判ナリト云フニ在リ

然レトモ既ニ第一點ニ於テ說明シタル如ク清二及精三カ戸籍面ニ「ツル」ノ私生子トシテ登錄ニ在ルニヨリ上告人ノ嫡出子タルコトノ認知ヲ求ムルモノナルカ故ニ原院カ第一審判決主文ニ「被告ハ原告ノ私生子竹川清二及ヒ竹川清三カ被告ノ實子タルコトヲ認知スヘシト」言渡シタル判決ヲ維持シ控訴ヲ棄却シ其理由中以上說明ノ如ク被控訴人ハ控訴人ノ嫡出子ニシテ私生子ニアラサル事實ノ明瞭ナル上ハ云云」ト說明シタルモノニシテ上告論旨ノ如キ違法ナシ

其第五點ハ第一審辯論書ニ「本件ハ竹川ツルカ獨立シテ起訴シ居ル譯カ又清二清三ノ二子ヲ代表シテ起訴シ居ル譯カ(被上告人)答ツルカ獨立シテ訴ヘ居ルナリ」トノ記載アルニ依レハ本件ハ第一審辯論中竹川ツルニ於テ清二清三ヲ代表セス自己獨立ノ訴トナスコトニ變更セシコト明白ナリ而シテ第二審ニ於ケル訴ノ變更ハ相手方ノ承諾アルトキト雖モ之レヲ許スヘキモノニアラサレハ第二審ニ於テ本件ヲ目シテツルカ清二清三ヲ代表シテ訴ヲ維持スルモノト見做シ判決ヲ下シタルハ法則ニ違反セリト云フニ在リ○然レトモ一件記錄ニ徵スルニ「ツル」カ獨立シテ本件ノ訴ヲ提起スルモノナリトノ書面ニ基キタル申立ナク却ツテ「ツル」カ引續キ清二及ヒ清三ノ法定代理人トシテ辯護士石澤齊吉ニ訴訟代理ヲ委任シタル

書面ヲ提出シ在ルカ故ニ本論旨モ亦其理由ナシ

上文辯明ノ如ク本件上告ハ總テ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

○施行前ノ未成年者ノ爲ニスル訴訟提起權

（明治三十二年(オ)第二百五十六號令三十三年四月二十六日民事部判決）

右當事者間ノ不當相續取消請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十二年九月十日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲナシ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲナシタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲナサシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告趣旨ノ第一ハ原判決理由第三項ニ於テ本訴ハ相續權回復ノ訴ナルコト前顯說明ノ如シ然ラハ之カ請求權アルモノハ家督相續人又其法定代理人ニシテ單ニ親戚ナルノ故ヲ以テハ之カ請求ヲナシ得サルモノトス云云ト說明セリト雖モ抑モ民法實施前ニ於テハ相續人ノ親戚ナル者ハ其親族權及相續人保護ノ爲メ親族ニ基キ相續當否ヲ爭フコトヲ得タルハ從來ノ慣習ニ於テ然ルノミナラス御院ノ判例ニ於テモ亦明カニ認メラルル所ナリ而シテ本件上告人佐々ゆきヲ除クノ外三名ハ悉クゆきノ近親ニシテ然カモ本訴ハ民法施行前ニ提起シタルモノナレハ當事ノ習慣及法則ニ毫モ違背スル所ナキ適法ノ訴ナルニ拘ハラス原院カ右樣ノ判斷ヲナシ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在リ

案スルニ民法施行前ニ於テハ後見ノ制度未タ完備セサリシカ故ニ未成年者ノ親族ハ未成年者ノ利益ヲ保護センカタメニ訴訟提起ノ權アルモノトナシタルコトハ本院ノ判決例ニ於テ歷歷之ヲ徵スルヲ得ヘシ抑本訴家督相續回復ノ請求權ノ如キハ家督相續人又ハ其法定代理人ノ行フヘキモノニシテ第三者ノ容喙スヘキモノニ非サルコトハ民法第九百六十六條ノ規定ニ依リテ自カラ明ナルヲ以テ民法施行後ニ於テハ如上ノ慣例ハ自ラ廢滅ニ歸セサルヘカラサルハ固ヨリ論ヲ待タス然レトモ既ニ民法施行以前未成年者ノ親族カ未成年者ノ爲メ訴訟ヲ提起シ